

# 令和5年度事業報告書

自 令和5年4月1日  
至 令和6年3月31日

公益財団法人 **オイスカ**

## 目次

はじめに

1. 海外開発協力事業	1
2. 「子供の森」計画事業	8
3. 人材育成事業	14
4. 啓発普及事業	28
5. 収益事業	45
6. 組織の運営	46

## はじめに

年々厳しさを増す国際情勢はより不透明感を増しており、またわが国をはじめ世界各地で頻発する自然災害や自然環境の破壊など、私たちの住む母なる地球の将来を大変危惧いたしております。

1961年の創設以来、国際社会が抱える諸課題の解決に向けて活動を開始したオイスカではありますが、長年にわたる国際協力活動の中で多くの貢献を果たしてきたと自負する半面、急激な社会変化等に伴って次々新たに生じる諸課題を考えたとき、複雑で忸怩たる思いをぬぐえないのが残念です。ともあれ、「モノと心の調和した国際社会の発展・高揚」を目指した創立時の理念に思いをいたしたとき、改めてその使命と責任の重さを痛感いたしております。

さて、令和5年度は一部を除き全般的にコロナ禍前の状況に近い形で諸活動を推進することができました。ただ、急激な円安により財政面、特に海外での支援活動が多方面で影響を受けており、各プロジェクトの運営にも少なからぬ支障をきたしております。同時に、一部の対象国における紛争や政情不安の影響からの行動制限も生じており、国際協力の難しさを今さらながら実感させられております。

この一年間、国内外での諸活動をほぼ恙なく実施できましたのも、ひとえに長年にわたる賛助会員や支援者の皆様の心温まるご参加とご尽力の賜物であると深く感謝いたしております。財政面では依然厳しい状況が続いておりますが、支援者各位のご協力を得て、①海外開発協力事業、②「子供の森」計画事業、③人材育成事業、④啓発普及事業の公益4事業をほぼ計画どおり実施することが出来ました。改めて関係各位に御礼申し上げます。

今国会で公益法人の認定法一部改正が成立し、7年度から法人の自立性や透明性の確保がより求められるようになり、ガバナンスの在り方も問われるようになります。また人材育成事業の一環として実施している技能実習生の受け入れについても法律改正により育成就労制度に変わります。

このような変化に対応しつつ、国内外の諸課題解決に向けての期待になお一層応えていくべく、財政健全化等に努めながら引き続き取り組んでまいり所存です。引き続き、オイスカ活動へのご支援とご協力、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和6年6月

公益財団法人オイスカ  
理事長 中野 悦子

## 1. 海外開発協力事業

### 総括

ポストコロナの経済構造が変化し、企業も不透明な先行きに迷いながら社会貢献よりも本業へと集中しつつある中で、円安の影響により限られた寄付の使途を厳選せざるを得ず海外の現場でも四苦八苦している。そのような状況ではあるが、今年度も自然再生・保全活動、海外人材育成、持続可能な産業の開発・促進を中心とした事業を推進した。

自然再生・保全活動では、自然の力を生かした社会課題解決（EBS）のアプローチを取り入れ、持続可能な森づくりを推進するため、各国で住民の生計向上を組み入れた事業を推進し、気候変動や環境破壊のリスクにも対応できるような生態系を活用した防災減災活動（Eco-DRR）を海岸地域でのマングローブ保全を中心として継続した。また、ウズベキスタンにおいてはインフラ整備を中心に外務省の日本 NGO 連携無償資金協力（以下、N 連）や経団連自然保護基金による沙漠緑化プロジェクトも実施した。

海外人材育成では、相手国政府との長年の信頼関係から現地でのニーズにこたえる形で研修活動がアジア太平洋各地で続けられ、リーダーシップを発揮できる有為な人材の育成に努めている。彼、彼女らが地域の持続発展性を高めることを確信している。また、従来の農業を中心とした訪日研修に加え、近年急速にニーズが高まっている技能実習や高度な技能を持つ人材の日本招聘の拠点としての機能も研修センターや現地組織が果たしている。

持続可能な産業の開発・促進では、タイでの島しょ部の住民を対象にしたマングローブ林で培われた豊かな環境を利用した生計向上プロジェクト（N 連）を3年間実施し、新たな地場産品を生み出すなどの成果があった。また、インドネシアでの伝統的な生活様式を守りつつ生活基盤を整備し生計向上を図る事業で、同じ N 連を活用して整備したインフラで水質改善、農産物の出荷が促進され、疾病率の低下や住民一人当たりの収入の向上を図ることができた。新たにインドで始まったガンジス川浄化に資する生計向上プロジェクトでは、竹炭を活用した土壌改良で農産物の質の向上を図る取り組みが緒に就いた。

最後に、緊急・復興支援活動として、2021年より続く政情不安のミャンマーや2023年2月に地震被害を受けたトルコでの事業を実施した。

これらの取り組みから特徴的なものをいくつかを取り上げ以下に紹介する。

### 1. プロジェクトの実施成果

#### <自然再生・保全活動>

オイスカでは、自然の力で社会課題を解決すべく（EBS）、令和5年度も引き続き世界各地の海岸沿いでマングローブ林、山々の森の保全並びに再生活動をフィジー、インドネシア、フィリピン、タイ、バングラデシュそしてウズベキスタン等の各国で活動を実施し、約400ヘクタール、87万本の森林再生を行った（「子供の森」計画での植栽分含む）。

新規の植林活動も重要ではあるが、オイスカがそれ以上に重視しているのは保全活動だ。オイスカが考える保全活動は、大きく分けて三つある。一つ目は、補植や草刈り等、植えた苗木を育てるために行う通常の維持管理作業。二つ目は、台風や津波などの異常気象、そして火災など人為的な脅威から森を守るための活動（Eco-DRR 活動）。そして三つ目は、森を地域住民が長く守っていけるような、環境教育や生計向上支援を含む、住民に向けて行われる様々な施策。これら三つの活動がバランスよく実施されていくことで、再生された森が確かな形で長く守り育てられていく。以下、保全活動をプロジェクトの中心に据えている事業を二つ紹介する。

#### 1. マングローブ保全プロジェクト

2023年度は、インドネシア、タイ、フィリピン、フィジー、バングラデシュの5か国13地

域にて計約 146 ヘクタール、56 万本の新規植林を行った。樹種・植栽方法も多様で、ヒルギダマシ等種から育てるマングローブについては播種、育苗するケース、野生苗を採集しポットで一定期間育てた後に移植するケースなどがある。胎生種子となるヒルギ系マングローブは、胎生種子をそのままダイレクトで植えるケース、数カ月間の育苗を経て大きくなった苗を移植するケースなどがある。一般に土壌が安定していれば、小さな苗あるいは胎生種子をそのまま植える。これによりコストを抑えることが可能となるが、海の前面など波の影響があるサイトでは、波などに耐えられるよう、育苗して大きく育てた苗を植えることが多い。植林間隔についても同様で、安定した土壌であれば、広め（例えば 2m × 2m）、波の影響等が懸念される場所では狭い間隔（例えば 1m × 1m）で植栽するなど、サイトのコンディションに応じて工夫している。

また、植林した苗の全てが活着するとは限らない。枯損の原因は、波浪やフジツボなどの自然由来の問題、人為的な破壊など社会的な要因など様々なものがある。どちらの要因に対しても、地域住民が主体的にマングローブを維持管理できるような体制を築いていくことが、植えたマングローブが守られ、育っていくためには重要なカギを握っている。こうしたことから、タイとインドネシアでは、住民の声に耳を傾け生計向上（持続可能な産業創出・支援）とマングローブ保全の双方が実現するような活動を実施している。昨年度はコロナ禍も収まり、人の動きも戻りつつあることからマングローブツーリズムを促進するための動きも再び活発になってきた。

### 2. ウズベキスタン沙漠緑化プロジェクト

外務省日本 NGO 連携無償資金協力の助成を受けたことで、車両購入、育苗場などのインフラ整備を進めることができた。特にアラル海の活動地に設置した基地は、緑化活動や調査のための数日間の滞在が可能となり、プロジェクトの進捗に欠かせないものとなった。育苗場運営に関しては水の確保など、課題はあるものの改善に向けた取り組みも始動している。

サクサウル植栽に加え、葉草栽培（主にニクジュヨウ）もプロジェクトの重要な取り組みの一つとなっており、住民を対象に、その効能や栽培方法への理解を深めるためのセミナーを実施するなど、地域への展開もスタートさせることができた。

また、10 月にはウズベキスタンという国や本プロジェクトへの理解を深めてもらうためのスタディツアーを企画。日本から会員ら 32 名が現地を訪問し、アラル海でのサクサウル植林を体験した。日本人の受け入れに当たっては訪日研修生 OB が通訳をはじめ、さまざまなサポート力を発揮しており、人材育成の成果も感じられるツアーとなった。

### <海外人材育成>

これまで、主にアジア太平洋地域において、農村地域の農業振興や環境保全活動のリーダーとなる人材の育成に取り組んできた本事業であるが、その取り組みには様々な形態がある。政府との良好な信頼関係から長期にわたり活動を続けているマレーシア・サバ州での活動と、その卒業生の活躍についてここでは紹介する。

（マレーシア・サバ州）

マレーシア・サバ州では、1977 年に農村青年人材育成のための研修センターを現地に設立し、2023 年までに 1859 名が農業研修を修了し、その内の 288 名が更なる研修の機会として日本の研修センターに派遣されてきた。

現在、マレーシア政府農業食品産業省傘下の KPD オイスカ青年研修センター（以下、センター）では、日本の研修を修了したスタッフが指導員となり、対人関係や集団行動などの社会的スキルと、5 コースに分かれた技能的スキルをセットで指導している。

本年は、野菜栽培コース 19 名、食品加工コース 13 名、きのこと栽培コース 9 名、稲作コース 8 名、養鶏コース 10 名が基礎研修 2 ヶ月と本研修 14 ヶ月の計 16 ヶ月間（2024 年 8 月、一部は 11 月まで）学んでいる。センター内の研修圃場や施設での実技研修を主にしながら、座

学の講義や試験なども実施し、修了するとディプロマの認定を受けることが出来る。サバ州内では、米自給率が 20%に過ぎず、野菜栽培での農薬の多用が問題になっており、センターによる農業人材の育成に対する期待は非常に高い。研修を修了後、サバ州内の農業振興に関わる KPD（農村開発公社）の職員として活躍している者も多く、また、その他の分野でも多くの卒業生が活躍しており、サバ州全体の発展に貢献してきたと言える。

2019 年、センター卒業生の連携を強化するためにサバ州 OB・OG 会が組織され、多くの卒業生が活動に参加している。本年も、センターと連携しながら、サバ州内の村落開発の支援や OB・OG の相互扶助活動などに積極的に取り組んでいる。

### <持続可能な産業の開発／促進活動>

持続可能な産業の育成は、生計向上が伴ってこそ成功する環境保全や開発と表裏一体のものである。いかに生活環境の改善が図られようとも食の供給を基礎とする生計維持の機能が途絶えては、社会インフラとしての環境改善の持続性は見込めない。多様化する現代においてはニーズもさまざまであり、生産者と支援者や消費者を結びつける役割としてのわれわれのような NGO の存在は、お互いのニーズを把握している点において優位に働く。こうしたマッチングを助けることにより開発途上地域の人々に裨益する産業を生み出していくような動きが望まれている。本年度も以下のような取り組みが進められたので紹介する。

#### 1. ラノー州のマングローブ林再生を通じた社会的弱者層生計向上プロジェクト（タイ）

外務省 NGO 連携無償資金協力の支援を受けて実施した本プロジェクトは、2024 年 3 月で 3 年間の事業期間が終了した。タイ南部での森林保全・再生並びに生計向上を主とする本プロジェクトではタイ南部ラノー州の 4 地域（1 村 3 島）を対象地とし、マングローブ植林による環境保全・再生、住民への啓発活動に加え、漁具貸し出し、水産物等の加工・販売、エコツーリズムの実施等、環境に配慮した生計向上プロジェクトを実施。最終年となった本年度ではこれまでの活動の経験を活かして内容をブラッシュアップしつつ、事業終了後も住民自身によって活動が継続できるような土台の整備に注力した。その一環として、裨益住民の代表者らを日本に招聘する訪日研修を宮城県名取市を中心に実施。漁業が主産業で津波の被災地という共通点を持った名取の人々が行っている取り組みや、未曾有の大災害からどのようにして復興してきたかなどを学んだ。

本事業初年度にはコロナ禍の影響を大いに受けるなどイレギュラーもあったが、現地スタッフや関係者の努力もあって全体としてはおおそ想定通りの成果を上げることができた。事業終了によって資金面でのサポートはなくなるが、自己資金等も活用しながら今後も引き続きフォローアップを行っていく。

#### 2. 伝統的生活様式を守って生活する共同体の生活基盤の整備と生活環境の改善、生計向上の支援事業（インドネシア）

令和 2 年度より日本 NGO 連携無償資金協力により開始した「伝統的生活様式を守って生活する共同体の生活基盤の整備と生活環境の改善、生計向上の支援事業」の 3 年次が、昨年度より継続して実施された。本事業は、西ジャワ州スカブミ県の山岳部に居住する、スンダ族の伝統的な生活様式を守って生活する共同体を対象に、住民の生活環境の改善と生計向上を目指すもので、その住民 2,300 名が事業の対象となっている。

本年度は、前年度までに形成されたグループの生産物が、本事業で供与された車両により近隣の町へ出荷できる体制が整えられ、事業開始前と比較して平均して一戸当たり 3 倍近い収入が得られるようになった。村内の環境改善では本プロジェクトによるゴミ銀行などの取り組みと、新たに整備した共同水場 12 基により村内の環境が改善したと答える住民が全体の 6 割を越え、水質の改善により皮膚病などの罹患者も半減した。

2023 年 7 月には日本大使館より臨時代理大使も参加して現地カウンターパートへの譲渡式典も開催され、オイスカのサポートによる住民の自主管理による体制へと移行した。

### 3. ガンジス河流域村における水・土・森の自然資源共生型農業技術普及による持続可能な生計向上支援プロジェクト（インド）

令和5年10月2日より、JICA 草の根技術協力事業として「ガンジス河流域村における水・土・森の自然資源共生型農業技術普及による持続可能な生計向上支援プロジェクト（草の根パートナー型）」を開始した。事業期間は4年である。本事業は、インド国ウッタル・プラデシュ州バラナシに位置するガンジス河流域の3つのモデル村において、自然資源を活用した農業技術の導入による生計向上・生活環境改善を目標としている。自然資源の活用としては、竹炭を取り入れた農業と果樹・ハーブの植林を行い、それによって得られた農作物の販路開拓をすることで、環境を保全しながら所得向上を目指す。同時に、ガンジス河の汚染の深刻化という背景がある中で、自然資源の持続可能な活用の必要性に対する住民の理解を深めるねらいがある。

今年度は、事業初年度となることから、活動の下地づくりに注力した。事業地の関係者への説明、野菜や果樹・ハーブの栽培状況の調査をするとともに、1村に竹炭窯1基を設置し、本格的な活動を開始する足掛かりをつくることができた。今後は竹炭の活用に関する住民へのセミナーと試験栽培を実施し、住民の理解を深めながら、実践的な野菜・果樹・ハーブの栽培に取り組んでいく。

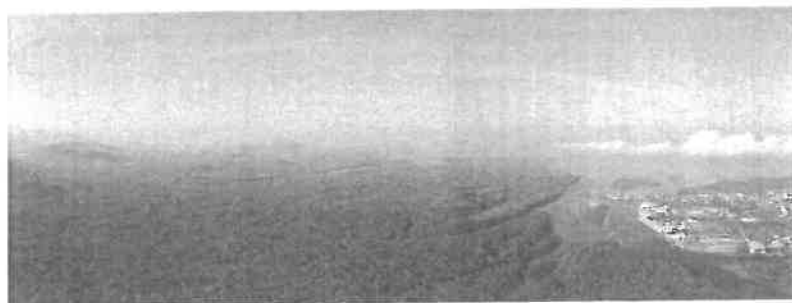
### <緊急・復興支援>

#### ・トルコ・シリア地震支援

2023年2月にトルコとシリアで発生した地震に際し、オイスカの研修生OGから紹介を受けた現地NGO”Our Children’s Foundation”を通じて被災した小学生や就学前の子どもらに心理的、社会的な支援活動を実施した。地震発生から2か月間、被災地である南東部からイスタンブールやイズミル、アンカラといった都市へ避難した子どもたちに、毎週1回、専門家の関与の下、絵画や陶芸、音楽などの芸術活動を提供するワークショップを行うことで、子どもたちのストレスの軽減に努め、自宅に戻るまでのこころのケアを施した。研修生OGとの連携を図る意味でも有益な活動を実施することができたと考える。

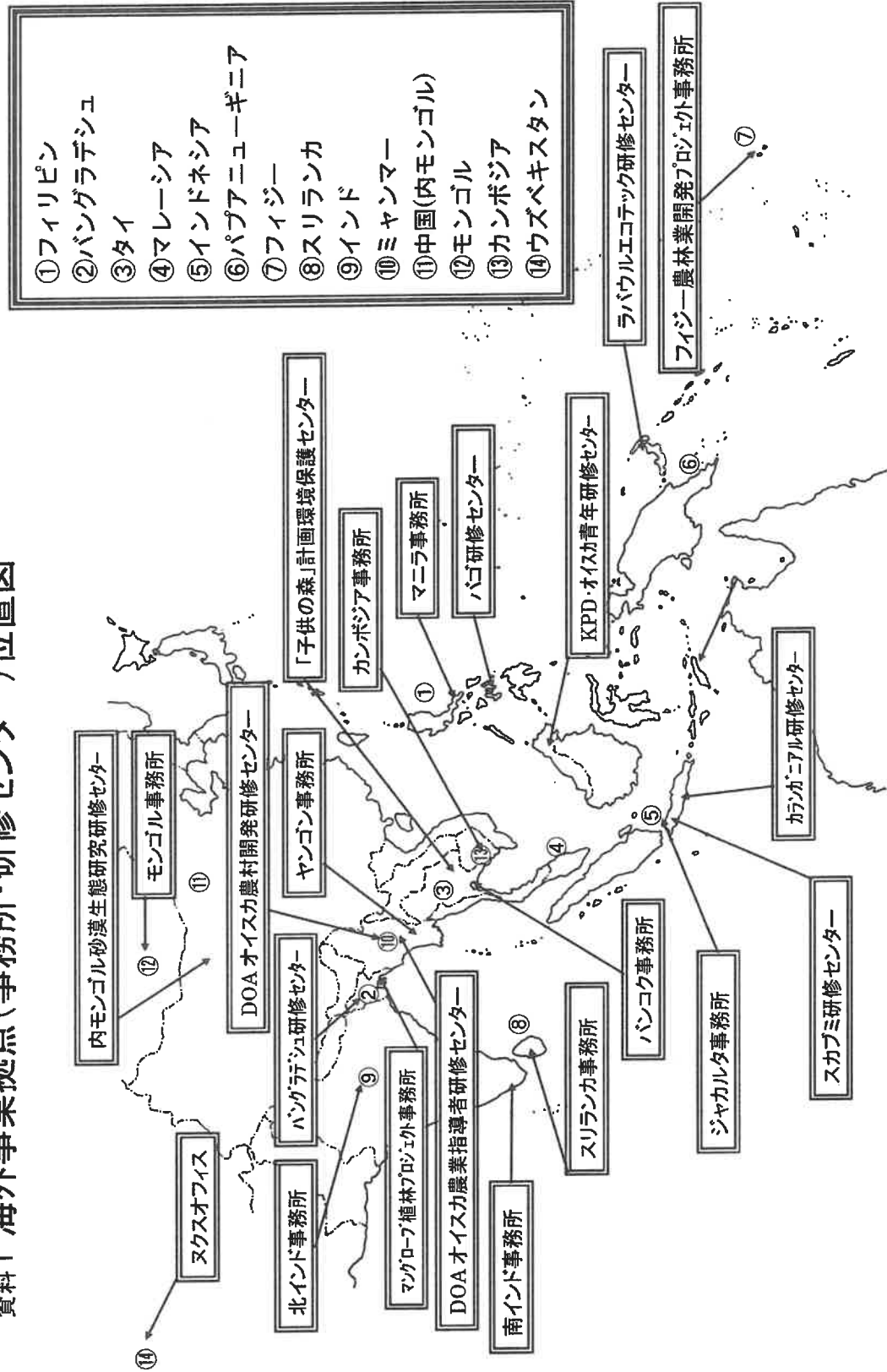


ウズベキスタン



タイ・ラノーン

資料1 海外事業拠点(事務所・研修センター)位置図





資料2 海外駐在員派遣リスト

	氏名	担当業務
インドネシア		
1	大垣直哉	調整・渉外
2	加納達也	運営管理
フィリピン		
3	渡辺重美	運営管理
4	石橋幸裕	運営管理
タイ		
5	春日智実	運営管理
6	高木美智代	調整・渉外
パプアニューギニア		
7	荏原美知勝	農業技術指導・調整
フィジー		
8	ジョセリン マクソハイ	調整・渉外
ウズベキスタン		
9	富樫智	運営管理
10	青山優菜	調整・渉外

資料3 海外事業拠点別 現地スタッフ及び、受入研修生数

No	国名	センター・事務所	現地スタッフ	研修生
1	バングラデシュ	バングラデシュ研修センター	7	0
2		チッタゴン・マングローブ植林プロジェクト事務所	3	-
1	インド	南インド事務所	13	-
2		北インド事務所	7	-
1	インドネシア	スカブミ研修センター	10	37
2		カラングニアル研修センター	10	5
3		ジャカルタ事務所	0	-
1	マレーシア	KPD-オイスカ青年研修センター	18	58
1	モンゴル	オイスカモンゴル事務所	4	-
1	ミャンマー	ミャンマー農村開発研修センター	20	0
2		ミャンマー農業指導者研修センター	13	10
1	フィリピン	マニラ事務所	5	-
2		バゴ研修センター	14	24
3		ヌエバビスカヤ植林プロジェクト	1	-
4		パラワン研修センター	3	0
6		アブラ農林業研修センター	4	20
7		ヌエバエシハ研修センター	3	27
1	スリランカ	スリランカ事務所	4	-
1	タイ	北部タイ緑化プロジェクト (チェンライ)	4	-
2		マングローブ・プロジェクト (ラノー)	6	-
3		「子供の森」計画環境保護センター (スリン)	1	-
4		「子供の森」計画 (コンケン)	1	-
5		バンコク事務所	4	-
1	カンボジア	カンボジア事務所	3	-
1	フィジー	フィジー農林業開発プロジェクト事務所	8	23
1	パプアニューギニア	ラバウル・エコテック研修センター	12	0
1	中華人民共和国	内モンゴル砂漠生態研究研修センター	2	1
1	ウズベキスタン	ヌクスオフィス (カラカルパクスタン農業大学内)	6	-
合計			186	205

\*現地スタッフとは、法人の直接雇用ではなく個別プロジェクトのニーズに見合う臨時雇用者を現地採用しているスタッフ

## 2. 「子供の森」計画事業

### 1. 総括

2023年度は、天候不順が続き、豪雨、熱波や干ばつといった異常気象も頻発・長期化するなど、「子供の森」計画（以下、CFP）を進めるにあたっては計画通りに活動を行うことが難しく、臨機応変に対応することが求められる一年だった。洪水や土砂崩れ、山火事などの自然災害の影響も深刻化しており、参加校の校舎や植林地が被害を受けるなどの被害も発生している。またコロナ禍を経て、各国の経済活動は回復傾向にあるが、物価は軒並み上昇しており、苗木や肥料、あらゆる資機材や燃料が高騰しており、円安も相まって活動にも深刻な打撃を与えている。

予算面では苦しい部分も多くあるが、気候変動や自然災害が深刻化する中だからこそ、子どもたちと共に森林や生態系の再生に取り組み、その大切さを伝える CFP の担う役割が高まり、学校や地域からも多くの期待が寄せられている。期待やニーズにできるだけ応えられるよう、苗木づくりから子どもたちと取り組むなど、現場ごとにコストを抑える工夫をしつつ、子どもたちが体験し、学ぶ機会を確保できるよう活動を推進した。こうした取り組みの結果、2023年度には新たに104校が仲間入りをし、1991年の事業開始からの累計参加校は、5,572校となった。緑化の面では、16の国と地域の455の学校とコミュニティが参加し、それぞれのニーズや状況に即した植林活動を実施。厳しい気候の中でも苗木が枯れないような工夫を行い、子どもたちと管理を継続することでその生存率を高めている。環境教育においても、実践の機会としての CFP 活動の需要が高まっており、特に学校菜園やごみに対する取り組みが各地で活発さを増している。子どもたちが収穫したものや、リサイクルの一環として作成したものの一部は保護者を中心に住民に販売されており、学校の収入になるとともに、活動に対する理解を育む機会にもなっている。

こうした活動を上げていく上では、その中心となる人材の確保・育成が急務となっている。各地で CFP コーディネーターに対する研修会を開いたほか、教員や高校生、大学生などユースリーダー向けのセミナーを開催するなど、共に取り組みを拡げてくれる人材やネットワークの育成にも取り組んでいる。オイスカの訪日研修生に対しても、CFPに関する研修を強化するなど、次世代のコーディネーターの育成も今後さらに力を入れていかねばならない。

現地での活動を支えるとともに、理解や協力の輪を広げるため、コロナ禍で開催を見送っていた子ども親善大使事業や支援企業・団体による海外ボランティアツアーなどのリアル型の国際交流事業も再開した。4年ぶりの開催となった子ども親善大使事業では、日本各地にて国を超えた学び合いを促進。報告会などを通じて、支援者らの CFP 活動に対する理解を深めるとともに、親善大使自身が学んだことを持ち帰り、モチベーションを高く持って、ふるさとでの活動の輪を広げている。リアルでの交流が再開する中でも、オンラインを活用した報告会や交流ワークショップも気軽に参加できるなどのよさがあり、リアル型と使い分けながら継続実施している。なお、支援者向けには、支援国ごとの活動レポートを作成したほか、CFP 全体の近況や成果を伝えるニュースレターやカレンダーなどを届け、取り組みに対する理解の促進を図った。こうした広報活動の結果、2023年度（2023年4月1日から2024年3月31日）の「子供の森」計画支援口数による支援（5,564口）や企業・団体・個人などからの寄附や募金など合わせた寄附金総額は52,114,099円となった。なお対象地については、現地のニーズや実行体制に基づき、バングラデシュ、カンボジア、フィジー、インド、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、フィリピン、パプアニューギニア、スリランカ、タイにおいて、重点的に事業を展開した。

## 2. 各プロジェクト実施成果

### ① 課題に対応しながら森づくりを継続

2023年度は、コロナ禍の影響もなくなり、各地で緑化や環境教育が活発に進んだ。2023年度は16の国と地域における455の学校とコミュニティで実施（マングローブ植樹を含む）。活動ニーズが高まる一方、水不足や天候不順、苗木・資機材・燃料などの価格高騰が活動にも深刻な影響を与えている。インドネシアでは干ばつが長引いたことで、一部の地域では極端な高温に見舞われ、苗木が枯れてしまうケースも出た。他国でも乾燥した時期が続くことで、水不足だけでなく山火事が発生し、植林地が被害を受ける事例も少なからず出ている。こうした地域では、ペットボトルを使った点滴灌水（水を入れたペットボトルの蓋に小さな穴を開け、逆さまにして土に挿す）を導入したり、大雨が降っても滞水せずきちんと排水されるように土地を整備するなど、極端な気候の中でもできるだけ苗木の生存率が上がるよう工夫を行いつつ、それでも枯れてしまった場所では、補植を行いながら、モニタリングを強化するようにしている。また台風被害の多いフィリピンでは、活動校の校舎や植林地が被害を受けてしまうこともあったが、倒れた木々は教室の柱や椅子、机の材料にするなど、さまざまな用途に活用することができ、災害後の復旧にも役立った。こうした作業には、保護者も協力を惜しまず関わってくれている。被害を受けた植林地では、しっかりと根を張り、防風林にもなるような樹種を中心に補植を進めている。

生物多様性に関する旗艦的な取り組みとして、5月22日の国際生物多様性の日を記念したグリーンウェイブも、国連生物多様性条約事務局（SCBD）と連携して継続して推進。2023年度は、10の国と地域において242の学校・地域で各地の郷土樹種を中心とした植樹や生物多様性の保全に関連したセミナーなどが行われ、合計10,079名が参加した。

### ② 自然の恵みに触れ、自然と共にある暮らしの豊かさについて学ぶ

環境セミナーに加え、学校を拠点とした農業実習や清掃活動、ごみの分別指導、自然観察など、子どもたちが楽しみながら環境保全の大切さを学んだり、ふるさとの自然の豊かさに触れるプログラムを幅広く実施。特に学校菜園の活動は、比較的容易に始められ、成果が分かりやすいことから、非常に活発で、8の国で合計273校が参加。できるかぎり化学肥料や農薬を用いず、身近に手に入るものを使ってたい肥をつくるなど、工夫しながら教えている。スリランカのクルナワ学校では、学年ごとに区画を分けて畑を管理し、それぞれが畑のデザインや植える野菜を考えながら管理を行っており、学年が上がれば、担当している畑の場所も変え、さまざまな環境での畑づくりを経験している。牛糞と落ち葉を混ぜたたい肥をつくったり、ニームやニンニク、唐辛子を煮込んだ液をかけて農薬代わりに使用。収穫した野菜は給食で提供するほか、高学年の生徒が代表して販売し、学校の収入にしている。このように育てた野菜類や、収穫した果実は、給食などで子どもたちのお腹を満たすほか、学校の収益にもつながっている。

このほか、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、スリランカでは複数校の児童生徒が学びあうエコキャンプを実施。ミャンマーでは、第一研修センター周辺は情勢が安定せず環境教育は実施できなかったが、首都に近い第二研修センターがあるピョーボエ郡は、比較的情勢が落ち着いているため、植林や学校菜園活動と合わせて、同センターを拠点として4年ぶりにふるさとワークキャンプを実施することができた。周辺の11校から子どもたちや教員の代表が集まり、それぞれの学校の取り組みについて共有しあうとともに、地域の環境課題についてディスカッションを行った。

こうして活動が活発に進む一方、コロナ禍によって教育の空白期間があったことが子どもたちの学力や集中力の低下を招き、活動にも影響を及ぼしている。こうした傾向はきめの細やかな教育、十分な教材、そしてオンライン指導も可能である都市部の学校と、資金的にも教師数も、また設備的にも不十分な地方とで大きな開きが見られる。教室の中でも野外でも落ち着いて話を聞くことができない子どもも増えており、環境に対する行動や意識の低下も見受けられる。森づくりをはじめとした体験と、講義を重ねて、子どもたちの環境に対

する関心を引き出し、彼らが継続して取り組める機会や場づくりに注力していきたい。

### ③ 活動の輪を拡げる仲間を増やす

小中学生を対象とした活動が多い中、近年は高校生の参加も増えている。特にインドネシア・スカブミ県にあるプラスアルファラファン学校は、環境への取り組みに熱心で、CFP活動も10年生に対して年間74時間の授業が割り当てられている。さらにエコクラブが結成され、周辺の小中学校のCFP活動をサポートしているほか、環境パレードを行ったり、SNSでの発信を行うなど、高校生ならではの関わりが、活動に新たな風を吹き込んでいる。

活動の幅が広がる中で、各地域での活動を推進する指導員の育成も重要になっている。コーディネーターに対する研修会のほか、それぞれの学校での自主的な活動を促すため、担当教員向けのセミナーも実施。コロナ禍でオンラインで行っていたものをリアル開催に切り替えたところも多く、顔を合わせて課題を共有しながら語り合うことで、互いへの理解や信頼関係が深まったという声も多く、改めて対面コミュニケーションの大切さを実感した。コストや手間が削減でき、気軽に参加できるなどオンラインのよさもあるため、今後もリアルとオンラインを適宜必要に応じて使い分けたり、組み合わせながら実施していきたい。

活動の担い手であるコーディネーターについては、各地で高齢化が進んだり、若手が定着しないなど、人材の育成と確保が火急の課題となっている。各国での取り組みを進めるほか、日本国内のオイスカ研修センターで学んでいる研修生に対しても講義や研修を行い、コーディネーター候補を育てていくことにも取り組んでいるが、今後は個別のアプローチも行って、その流れを強化していきたい。なお2024年度には、数年中断していた国際コーディネーター研修も再開予定にしている。なおこうしたコーディネーター育成の一環として、2023年度に西日本研修センターでの研修を修了して帰国した東ティモールの研修生OBをインドネシアに1か月半派遣して、活動の調整や運営、子どもたちへのファシリテーション方法や報告書の作成などについて学ぶ研修を行った。東ティモールでのCFP活動は人材不足や体制面の問題から10年ほど中断していたものの、再開に向けて意欲を持った研修生OBがインドネシアで実践的な学びを深め、小規模ながらも活動を再開させている。

### ④ 4年ぶりに「子ども親善大使事業」を再開。2か国から児童生徒の代表及び指導者を招聘し、参加者・支援者の「子供の森」計画活動に対する理解や意欲を促進

2020年からの3年間はコロナ禍で中断していた「子ども親善大使事業」を4年ぶりに再開。2023年度は、タイ、インドネシアからCFPに取り組んでいる児童生徒の代表やCFPコーディネーターら計10名を日本へ招聘。国内研修センターや地方支部・推進協議会及び外部団体等と連携しながら、支援者への活動報告や学校交流、日本の環境保全や環境教育の取り組みの視察・体験などを行った。

#### <招聘日程・プログラム実施場所>

第一回目：タイ（2023年9月20日～9月28日）

場所：愛知県、岐阜県、東京都

第二回目：インドネシア（2023年11月20日～11月29日）

場所：福岡県、佐賀県、山梨県、東京都

タイの親善大使は、愛知、岐阜、東京を訪問。岐阜では、岐阜県支部主催で報告会を行うとともに、ぎふ木遊館やmorinos（岐阜県立森林文化アカデミーが運営する環境学習施設）にて日本の森林やその利活用について学ぶワークショップに参加。豊かな森を育むことで、人間にも多くの恩恵があることへの気付きを得た様子だった。

一方、インドネシアの親善大使は、福岡、佐賀、山梨、東京を訪問。佐賀では、NPO法人

唐津環境防災推進機構 KANNE 協力のもと、虹ノ松原の保全に取り組む学校を訪れ、互いに活動報告を行ったほか、松原の保全活動を一緒に体験した。また山梨県ではオイスカが企業や行政などと協働して取り組む森づくりの現場の視察や、その森で採取したハーブの蒸留体験を行うなど、日本の森の問題やその課題解決に向けた取り組みについて学びを深めた。

交流や視察を通じて CFP に対するさらなる意欲を持って帰国した親善大使らは、所属する学校だけでなく、近隣の学校等において日本での活動を報告するとともに、その経験を活かしながら積極的に活動に取り組むなど、帰国後も各自が親善大使としての役割を務めている様子が報告されている。

#### ⑤ ボランティアツアーも再開。オンラインも併用しながら海外現場とのつながりを育む

2023 年度は新型コロナウイルスが 5 類に移行し、水際対策の措置が終了したことから、コロナ禍で見送られていた支援企業・団体の海外へのボランティアツアーや視察が再開。数年ぶりの日本からの訪問に現地も地域をあげて歓迎。参加者たちは「子供の森」計画の学校訪問や植林ボランティアなどを通じて、地元の子どもたちや住民との交流を育んだ。電力総連の参加者からは「植林だけでなく管理作業など森づくりの大変さ、かかる時間の長さを身をもって実感した」との感想が聞かれるなど、参加者たちは、実体験することでプロジェクトに対する理解を深めた様子だった。

期間	支援企業・団体名	訪問先
2023 年 5 月 31 日～6 月 9 日	電力総連	フィリピン (ヌエバビスカヤ)
2023 年 7 月 27 日～29 日	京セラ労働組合	フィリピン (パラワン)
2023 年 10 月 30 日～31 日	デリシャス株式会社	タイ (チェンライ)
2024 年 1 月 18 日	株式会社ベストワン	マレーシア (サバ)
2024 年 1 月 31 日～2 月 4 日	化学総連	マレーシア (サバ)
2024 年 3 月 3 日～3 月 15 日	化学総連	フィリピン (アブラ、南イロコス)

子ども親善大使も再開するなど海外との交流が盛んとなった 1 年だったが、直接的な交流が再開する中でも、オンラインでの国際交流も継続実施。「せかい！動物かんきょう会議」

(子どもたちが、動物の立場になり共に環境問題について考える交流プログラム) を、下関 SDGs プロジェクトと連携して行った。山口県下関市内の小中学校とモンゴル、スリランカ、タイの CFP 参加校がオンラインにて交流を行った。子どもたちは、川のごみに苦しんでいる魚や、森に食べものが無くなりお腹を空かせているクマなど、事前に思い思いに作成した動物キャラクターになりきって地域の環境問題について共有し、その解決策について意見交換を行った。各国の子どもたちからは、人間だけでなく、動物も安心して暮らせるよう、ごみをポイ捨てせずに分別することや、水などの資源を大切に使うこと、食べものに感謝して残さず食べるなど自分にできる環境アクションについて多くの意見を交わされた。

2024 年 1 月 31 日 モンゴル・ウムノゴビ県ダランザドガド市第 2 学校×下関市立長成中学校  
 2024 年 2 月 7 日 スリランカ・クルネーガラ県クルナワ小学校×下関市立豊浦小学校  
 2024 年 2 月 21 日 タイ・アユタヤ県ワットラム小学校×下関市立熊野小学校

3. 2023年度「子供の森」計画 国別植林実績

累計実績：37の国と地域の5,572校で実施

No.	活動実施国名	2023年度		1991年～ 累積		参加校数 総計	2023年 新規 校数
		植林本数	植林面積 (ha)	累計本数	累計面積 (ha)		
1	バングラデシュ	400	0.24	91,838	72.67	239	1
2	中国(内モンゴル)	3,000	3.00	290,910	99.60	18	0
3	カンボジア	2,370	3.70	18,660	25.35	81	11
4	フィジー	2,411	2.94	816,928	601.48	68	1
5	インド	4,450	0.98	1,787,409	1244.65	2,140	19
6	インドネシア	40,435	33.71	520,140	611.65	467	22
7	マレーシア	552	1.99	91,079	86.62	243	2
8	ミャンマー	1,180	0.47	44,904	20.34	94	5
9	フィリピン	13,784	3.82	2,984,494	1112.24	1,189	9
10	パプアニューギニア	1,000	2.00	84,805	57.18	90	1
11	スリランカ	585	0.46	517,937	433.55	364	3
12	タイ	3,978	2.40	688,672	449.76	235	2
	*その他の国・地域	7,080	2.95	182,320	134.86	344	28
	合計	81,225	58.66	8,120,096	4949.95	5,572	104

※上記データは2024年3月末時点。

参加校数は、新規植林実績のある学校に加え「子供の森」計画に参加した学校すべての総計

※ その他の国・地域：

アフガニスタン、アルゼンチン、アゼルバイジャン、ブラジル、エチオピア、ホンジュラス、香港、イスラエル、日本、ケニア、メキシコ、モンゴル、ネパール、パキスタン、パラオ、パレスチナ、パラグアイ、台湾、東ティモール、トンガ、UAE、アメリカ、ウルグアイ、ウズベキスタン、ベトナム



ペットボトルを用いた点滴灌漑によって苗木の生存率を高める  
(インドネシア・スカブミ県)



長年の活動で校舎の周りにこんもりとした森が育つ。周囲の集落にも森林があり防風と遮熱効果を高めている (フィリピン・アブラ州)

#### 4. 調査研究、専門家、指導員派遣

1)

期 間：2023年5月31日～6月9日

派遣国：フィリピン（マニラ、ヌエバビスカヤ）

派遣者：諸江葉月

内 容：電力総連第25回人間と地球のふれあいセミナー同行

2)

期 間：2023年7月16日～1月23日

派遣国：インドネシア（スカブミ、マドウラ）

派遣者：中垣豊

内 容：国土緑化推進機構 森林・林業を専攻する高校生を対象とした国際交流事業の実施に関する調査業務

3)

期 間：2024年1月14日～1月25日

派遣国：スリランカ（コロンボ、クルネーガラ）、マレーシア（サバ）

派遣者：諸江葉月

内 容：スリランカ：National Youth Service Council との協働に向けた調整、現場視察、教員向けワークショップの開催、CFP 関連業務調整等  
マレーシア：支援企業受け入れ準備、CFP 校視察、CFP 関連業務調整等

4)

期 間：2024年1月31日～2月4日

派遣国：マレーシア（クアラルンプール、サバ）

派遣者：浅野奈々穂

内 容：化学総連現地視察同行

5)

期 間：2024年3月3日～3月7日

派遣国：フィリピン（アブラ、南イロコス）

派遣者：小林省太

内 容：モデルケースづくりに向けた現地活動評価、取材等

6)

期 間：2024年3月3日～3月15日

派遣国：フィリピン（アブラ、南イロコス、マニラ）

派遣者：吉田俊通

内 容：化学総連現地視察同行（3/3～3/6）、現場視察、業務調整等

7)

期 間：2024年3月26日～4月5日

派遣国：インドネシア（スカブミ）

派遣者：中垣アダ

内 容：現地会計業務補佐、業務調整等



### 3.人材育成事業

#### 総括

オイスカの人材育成事業は国内の研修センターで完結する一般研修と外部の企業や農家を現場とする技能実習を主体に行なっている。そうしたなか、一般研修はかつて外務省等の公的機関からの助成金等を財源にしていたが、それらの支援制度も廃止となり、その後はもっぱら財団会員の会費や寄付金等に頼っているのが実情である。そのため事業全体の財源も限られていることから研修生の受入人数も以前と比べて3分の1ほどに減少している。一方で国内研修センターはこうした状況をチャンスと捉えて、研修生一人一人へのきめ細かな指導や指導員の技術力アップを図るなどして研修の充実化を目指している。

本年度の一般研修には国際ボランティア、農業一般、家政、農業指導、地域開発の各コースにバングラデッシュ他15の国と地域から59名の研修生が新規では10ヵ月から12ヵ月、継続では2年間の研修を行った。特筆すべき点としてウクライナ情勢を反映し国内の支援団体からの要請を受けて、オイスカで初となる同国からの研修生1名を国際ボランティア（2年）で受け入れたことが挙げられる。入国後、日本語や生活習慣等を中心とした基礎研修約6ヵ月を既にウクライナからの留学生受入れ実績のあるオイスカ開発教育専門学校の協力を得て実施中である。基礎研修終了後は、中部日本研修センターに移動し、本格的に本研修を行う予定になっている。

技能実習については、オイスカは創立当初から国際協力による人材育成の一環として農家や企業等で委託研修として行ってきたが、その後日本の人口減少により特に第1次、第2次産業分野における人材不足という社会情勢の背景から委託研修は名称が技能実習に変更され今日に至っている。日本国内における受入数は年々増加しており、オイスカの受入人数も同様に増加してきている。昨年度は新規受入と継続とを合わせて農業部門が5ヵ国93名、工業・介護部門が5ヵ国232名、合計325名であった。入管法改正以降は技能実習終了後、特定技能への移行を希望する実習生が増えてきており、彼らの技能や能力を高く評価している受け入れ先からは技能実習以降後も特定技能として引き続き受け入れたいという声が多く寄せられている。その要望に応えるべく、委託事業として特定技能で3ヵ国60名を受け入れた。

オイスカの研修の特徴は研修センター開所以来、指導員と研修生が同じ宿舎で集団生活をおこないつつ、そこから互いの信頼関係を築き、日々の研修に生かしていくことも国内研修の目的の一つでもある。最近ではそうした役を担っている指導員の多くが研修生OB・OGたちである。また国内に限らず母国における研修センターや植林プロジェクト、事務所等の責任者、さらには南南協力の一環として、他国から技術指導者として招聘されるなど、今日彼らの役割は益々大きくなってきている。

1) 一般研修事業

① 研修員受入状況（国別および研修科目別）

国別 研修 科目	バングラデシュ	カンボジア	フィジー	インド	インドネシア	マレーシア	メキシコ	モンゴル	ミャンマー	パプア・ニュー・ギニア	フィリピン	東ティモール	ウズベキスタン	チベット（インド）	ウクライナ	合計
国際 ボラン ティア			1	1											1	3
農業 一般	2	2	5	3	1	3		2	3	4	3	2	1	2		33
家政						1	1				1					3
農業 指導						1				1						2
地域 開発			4		2	5	3	1	2				1			18
合計	2	2	10	4	3	10	4	3	5	5	4	2	2	2	1	59

## 人材育成事業

### ② 本年度研修員氏名一覧

No	氏名	国名	科目(委託先)	期間
<b>中部日本研修センター(15名)</b>				
1	Mr. Md. Abdur Rahman	バングラデシュ	農業一般	2022.6～2023.4
2	Ms. Miliakere Cirikiwai Tikoinasau	フィジー	国際協力ボランティア	2022.5～2024.4
3	Mr. Nikotimo Kina Droto	フィジー	農業一般	2022.5～2024.4
4	Mr. Moe Min Thu	ミャンマー	農業一般	2022.5～2023.4
5	Mr. Jerome Carlo De Guzman Suba	フィリピン	農業一般	2022.4～2023.4
6	Mr. Rahadul Hoque Babu	バングラデシュ	農業一般	2023.3～
7	Mr. Thomas Sonu	インド	農業一般	2023.3～
8	Mr. Chirakkal Abhisek	インド	農業一般	2023.3～
9	Mr. Kayat Sean Yuji	フィリピン	農業一般	2023.3～
10	Mr. Kaikmata Benjamin Navona	パプアニューギニア	農業一般	2023.3～
11	Ms. Amante Angel Hope	フィリピン	農業一般	2023.8～
12	Mr. Jacob Francis	パプアニューギニア	農業一般	2024.1～
13	Mr. Saunivalu Patrick Tokatokavanua	フィジー	農業一般	2024.1～
14	Mr. Saidin Faizel	マレーシア	農業一般	2024.1～2024.3
15	Ms. Plotianska Olesia	ウクライナ	国際協力ボランティア	2024.2～
<b>四国研修センター(19名)</b>				
16	Mr. Petero Maria Rerehoa	フィジー	地域開発	2022.4～2023.4
17	Ms. Latileta Tupou	フィジー	地域開発	2022.4～2023.4
18	Ms. Baiq Sanda Hafizah Sukmawati	インドネシア	地域開発	2022.4～2023.4
19	Ms. Patricia Zipilin	マレーシア	地域開発	2022.4～2023.4
20	Ms. Sarai Villanueva Tomasa	メキシコ	地域開発	2022.4～2023.4
21	Ms. Sandra Santos Robles	メキシコ	家政研修	2022.4～2023.4
22	Mr. Natavaya Osea	フィジー	地域開発	2023.2～2023.12
23	Ms. Lopez Flores Maria Del Pilar	メキシコ	地域開発	2023.2～2023.12
24	Ms. Thidar Htay	ミャンマー	地域開発	2023.2～2023.12
25	Ms. Enkhbold Amintsetseg	モンゴル	地域開発	2023.2～2023.12
26	Mr. Jeffrydoh Mosito	マレーシア	地域開発	2023.2～2023.12
27	Ms. Fredericca Ayoh	マレーシア	地域開発	2023.2～2023.12
28	Mr. Akseytov Janbolat	ウズベキスタン	地域開発	2023.3～2023.9
29	Ms. Noer Amalia Aam	インドネシア	地域開発	2024.1～
30	Ms. Vasiti Mause	フィジー	地域開発	2024.1～
31	Ms. Severinus Sherlynie	マレーシア	地域開発	2024.1～
32	Mr. Pyae Phyo Aung	ミャンマー	地域開発	2024.1～
33	Ms. Olaya Trujillo Nancy	メキシコ	地域開発	2024.1～
34	Mr. Julius Joel Allyson	マレーシア	地域開発	2024.1～

西日本研修センター(24名)				
35	Mr. Kingsley Sidiuli	パプアニューギニア	農業指導 OB	2022.5～2023.8
36	Mr. Sitiveni William Tawake Naicori	フィジー	農業一般	2022.4～2023.4
37	Ms. Tria Lusyana	インドネシア	農業一般	2023.2～2024.3
38	Ms. Kuruppath Drisya	インド	農業一般	2023.2～2024.3
39	Ms. Karma Namgyal Lhamo	チベット (インド)	農業一般	2023.2～2024.3
40	Mr. Em Nith	カンボジア	農業一般	2023.2～2024.3
41	Ms. Myo Thuzar	ミャンマー	農業一般	2023.2～
42	Mr. Boldbaatar Tegshjargal	モンゴル	農業一般	2023.2～2024.3
43	Mr. Eloress Jason Jausin	マレーシア	農業一般	2023.2～2024.3
44	Mr. Gusmao Amaral Agostinho	東ティモール	農業一般	2023.2～2024.3
45	Mr. Tokalau Josateki Naqovu	フィジー	農業一般	2023.2～
46	Mr. Jifree Jonathan	マレーシア	農業指導 OB	2024.1～
47	Mr. Wasika Benny Sozu Muramuchsu	パプアニューギニア	農業一般	2024.1～
48	Mr. Mati Wesley Rubenet	パプアニューギニア	農業一般	2024.1～
49	Ms. Babu Johnson Diya	インド	農業一般	2024.1～
50	Ms. Sitanggang Calaudia	マレーシア	農業一般	2024.1～
51	Mr. Hay Hakvichanouk	カンボジア	農業一般	2024.1～
52	Mr. Tsering Sangyal	チベット (インド)	農業一般	2024.1～
53	Mr. Alberto Sebastião	東ティモール	農業一般	2024.1～
54	Ms. Karolina Lenikauloa	フィジー	農業一般	2024.2～
55	Mr. Culala Joyson El Magtalas	フィリピン	農業一般	2024.1～
56	Mr. Thant Zin Lin	ミャンマー	農業一般	2024.1～
57	Mr. Gantumur Tsengelbayar	モンゴル	農業一般	2024.1～
58	Mr. Dosnazarov Ilkham Ruslanovich	ウズベキスタン	農業一般	2024.1～
関西研修センター(1名)				
59	Ms. Maxivelynn Elvia Binti Marosin	マレーシア	家政	2022.5～

2) 技能実習事業

① 農業技能

No	氏名	国名	期間
<b>耕種農業(施設園芸) 6名</b>			
1	Mr. Doculan Meljun Viernes	フィリピン	2022.10～2025.10
2	Mr. Deel Bierron Bin Donny	フィリピン	2023.3～2026.3
3	Mr. Calvin Madilis	フィリピン	2023.3～2026.3
4	Ms. Deska Juliana Putri	インドネシア	2023.4.～2026.4
5	Ms. Indah Uswatun Hasanah	インドネシア	2023.9～2026.9
6	Mr. Reyes Rayon De Aro	フィリピン	2023.12～2026.12
<b>耕種農業(畑作・野菜) 49名</b>			
7	Mr. Tesoro Tom James Isao	フィリピン	2018.5～2023.7
8	Mr. Alfaro Santy Jay Pilor	フィリピン	2018.5～2023.7
9	Mr. Imanuel Laupra	インドネシア	2018.8～2023.12
10	Mr. Princena Christian Benosa	フィリピン	2018.9～2023.12
11	Mr. Darwin Simanjuntak	インドネシア	2018.11～2023.12
12	Mr. Ainur Rasyid	インドネシア	2019.4～2024.6
13	Mr. Beboso Geneil Aurea	フィリピン	2019.7～2024.9
14	Mr. Cordero Joemar Sison	フィリピン	2019.7～2024.9
15	Mr. Borres Elizier Dula	フィリピン	2019.7～2024.9
16	Mr. Mina Jeffrey Macasiray	フィリピン	2019.7～2024.9
17	Mr. Rifqi Hanif	インドネシア	2019.9～2024.10
18	Ms. Hana Oktaviana	インドネシア	2020.12～2023.12
19	Mr. Paborada Noel Jr. Bulanon	フィリピン	2020.12～2022.12
20	Mr. Requiron Steniel Cabayao	フィリピン	2020.12～2022.12
21	Mr. Tarrazona Jomaver Telebrico	フィリピン	2020.12～2023.12
22	Mr. Claridad Jhon Ray Relota	フィリピン	2020.12～2023.12
23	Ms. Maryani	インドネシア	2021.1～2024.1
24	Mr. Reyes Marlo Jose	フィリピン	2022.3～2024.4
25	Mr. Wardi	インドネシア	2022.4～2024.4
26	Mr. Mohd Fadzili Bin Rahman	マレーシア	2022.4～2025.4
27	Mr. Cayley Josip	マレーシア	2022.4～2025.4
28	Ms. Anne Thien	マレーシア	2022.4～2025.4
29	Ms. Dilaila Donny	マレーシア	2022.4～2025.4
30	Mr. Gaylan Rene Boy Membrano	フィリピン	2022.4～2025.4
31	Mr. Gilboligaya Arnel Arriessgado	フィリピン	2022.4～2025.4
32	Mr. Aquino Mark Anthony Adame	フィリピン	2022.4～2025.4
33	Mr. Ballo Daryl Keitt Laureta	フィリピン	2022.4～2025.4
34	Mr. Sylvania Dexter Carbonel	フィリピン	2022.5～2024.5
35	Mr. Mahmud Ipaenin	インドネシア	2022.5～2023.7
36	Mr. Sodikin	インドネシア	2022.5～2025.5
37	Mr. Akbar Robi Pradana	インドネシア	2022.5～2025.5
38	Mr. Agri Alvredo Pelealu	インドネシア	2022.8～2022.9
39	Mr. Neal Keneddy Henry	マレーシア	2022.9～2023.6
40	Mr. Jack Jokhamis Mangki	マレーシア	2022.9～2023.6
41	Mr. Mata Jaymar Arsenio	フィリピン	2022.12～2024.12
42	Mr. Allen Vanuary De Guzman	フィリピン	2023.5～2026.5
43	Ms. Caballero Elisallen Canete	フィリピン	2023.9～2026.5
44	Mr. Muhamad Hasbi Ashshidieq	インドネシア	2023.9～2026.5
45	Mr. Muhammad Ramadhan Hidayatullah	インドネシア	2023.9～2026.5
46	Mr. Augustine J Apin	マレーシア	2023.9～2026.5

47	Mr. Dioso Joemil Apolinario	フィリピン	2023.10～2026.10
48	Mr. Cepida Edgardo Jr Domingo	フィリピン	2023.10～2026.10
49	Mr. Benigay Ramie Jr Gemoya	フィリピン	2023.10～2026.10
50	Mr. Muhamad Imron	インドネシア	2024.1～2027.1
51	Mr. Jalbuena Arjay Reyes	フィリピン	2024.2～2027.2
52	Mr. Cabriga Dexter Orno	フィリピン	2024.2～2027.2
53	Ms. Thet Thet Lwin	ミャンマー	2024.3～2027.3
54	Mr. Callejo Mark Anthony Silario	フィリピン	2024.4～2026.4
55	Mr. Trube Divino Marcellana	フィリピン	2024.4～2026.4
<b>耕種農業(果樹) 5名</b>			
56	Mr. Heri	インドネシア	2018.9～2024.2
57	Mr. Muhamad Miladi Aminyoga	インドネシア	2018.9～2024.2
58	Mr. Muhammad Rizki	インドネシア	2023.9～2026.9
59	Mr. M Danda Juliansyah	インドネシア	2023.9～2026.9
60	Mr. Muhamad Ranzi	インドネシア	2024.1～2027.1
<b>畜産農業(養豚) 27名</b>			
61	Mr. Aquino Ariel Vasquez	フィリピン	2018.5～2023.7
62	Mr. Balicao Ernie Rodavia	フィリピン	2018.8～2023.10
63	Mr. Gavanés Januaris Sotelo	フィリピン	2018.9～2023.10
64	Mr. Barcena Gerri Rejoso	フィリピン	2018.9～2023.10
65	Mr. Guinaban Ruben Gayban	フィリピン	2019.6～2023.10
66	Mr. Bob Romel Eduardo	フィリピン	2019.6～2023.10
67	Mr. Dion Kevin Lloyd Gallardo	フィリピン	2019.8～2023.10
68	Mr. Ayco Roland Bersalona	フィリピン	2019.8～2023.10
69	Mr. Flores Ronnel Cortez	フィリピン	2019.8～2023.10
70	Mr. Barreyro Adrian Hunter Millamina	フィリピン	2022.3～2025.3
71	Mr. Barreras Raul Jr. Ballesta	フィリピン	2022.3～2025.3
72	Mr. Manso Kim Julius Buagas	フィリピン	2022.3～2023.10
73	Mr. Delos Santos Dante Jimenez	フィリピン	2022.3～2023.10
74	Mr. Bob Roel Eduardo	フィリピン	2022.3～2023.10
75	Mr. Ardaniel Patrick Jay Valdez	フィリピン	2022.3～2023.10
76	Mr. Manahan Roberto Bartolome	フィリピン	2022.3～2024.3
77	Mr. Magahis Rentz Raniel Cuerdo	フィリピン	2022.4～2025.4
78	Mr. Oriasel Arnold Palad	フィリピン	2022.4～2025.4
79	Mr. Ying Hkaw	ミャンマー	2022.5～2025.5
80	Mr. Linn Htet Aung	ミャンマー	2022.5～2025.5
81	Mr. Villastiqui Renand	フィリピン	2022.8～2025.8
82	Mr. Favila Alexis Plurad	フィリピン	2022.8～2025.8
83	Mr. Sylvester Lewis	マレーシア	2022.11～2024.11
84	Mr. Zayar Soe	ミャンマー	2022.11～2024.11
85	Mr. Rubianes Kherwin Sesuca	フィリピン	2023.6～2024.1
86	Mr. Baula Kliford Bicera	フィリピン	2024.2～2027.2
87	Mr. Baldemor Racie Jay Alejandro	フィリピン	2023.6～2025.6
88	Mr. Billedo Lorenzo Sanidad	フィリピン	2023.6～2025.6
<b>畜産農業(酪農) 5名</b>			
89	Ms. D Susette Semuil	マレーシア	2020.11～2023.11
90	Mr. Lahagan Lee Ben Gumulom	フィリピン	2022.3～2025.3
91	Ms. Briosos Andrea Domingo	フィリピン	2022.12～2025.12
92	Ms. Ita Triyanti	インドネシア	2023.7～2026.7
93	Mr. Wangdisan Flobert Reyes	フィリピン	2023.12～2026.12

【実習科目及び国別研修生数】

実習科目 \ 国別	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	ベトナム	合計
耕種農業（施設園芸）	2			4		6
耕種農業（畑作・野菜）	14	7	1	27		49
耕種農業（果樹）	5					5
畜産農業（養鶏）						
畜産農業（養豚）		1	3	24		28
畜産農業（酪農）	1	1		3		5
合計	22	9	4	58		93

② 工業及び介護技能

No	氏名	国名	期間
<b>機械保全 5名</b>			
1	Mr. Marmeto Neil James Barbosa	フィリピン	2019.3～2024.5
2	Mr. Singuelas Eric John Fortuno	フィリピン	2019.3～2024.5
3	Mr. Alcoriza Daniel Jonas Nepomuceno	フィリピン	2022.4～2025.4
4	Mr. Muhammad Rasydan Bin Roslan	マレーシア	2023.3～2026.3
5	Mr. Muhammad Na Im Bin Mohd Yasim	マレーシア	2023.3～2026.3
<b>建設機械施工 18名</b>			
6	Mr. Pramudya Eka Syachriar	インドネシア	2019.7～2023.7
7	Mr. Pendik Jatmiko	インドネシア	2019.7～2023.7
8	Mr. Isam Fauzi	インドネシア	2019.7～2023.7
9	Mr. Angga Muria Pratama	インドネシア	2022.4～2025.4
10	Mr. Muhammad Faiz Fakhri Bin Zahari	マレーシア	2022.4～2025.4
11	Mr. Darsono	インドネシア	2022.5～2025.5
12	Mr. Rudi Hartono	インドネシア	2022.5～2025.5
13	Mr. Muhammad Haziqnurhakim Bin Md Sudarman	マレーシア	2022.5～2025.5
14	Mr. Aidil Syaffuan Bin Sulaiman	マレーシア	2022.7～2023.8
15	Mr. Eksan Saputra	インドネシア	2023.1～2026.1
16	Mr. Cecep Kurniawan	インドネシア	2023.7～2026.7
17	Mr. Taufik Rahmawan	インドネシア	2023.7～2026.7
18	Mr. Muhammad Zafri Bin Mohd Zamri	マレーシア	2023.9～2026.9
19	Mr. Mohamad Afiq Aiman Bin Azemi	マレーシア	2023.9～2026.9
20	Mr. Durahman	インドネシア	2023.10～2026.10
21	Mr. Planas Belmor Jr Nuyda	インドネシア	2023.4～2025.4
22	Mr. Galih Yatna Putra	インドネシア	2023.10～2026.10
23	Mr. Yohandi Rahmat	インドネシア	2023.12～2026.12
<b>塗装 7名</b>			
24	Mr. Luna Benjie Moring	フィリピン	2019.4～2024.5
25	Mr. Flores Angelo Abit	フィリピン	2019.4～2024.5
26	Mr. Ocumen Michael Palara	フィリピン	2019.7～2024.9
27	Mr. Garcia Francis Dale Batadlan	フィリピン	2022.4～2025.4
28	Mr. Balbinta Kent Cristian Senador	フィリピン	2022.4～2025.4
29	Mr. De Guzman Bernabe Jr Botanes	フィリピン	2022.12～2025.12
30	Mr. Valera Ryan Billedo	フィリピン	2022.12～2025.12
<b>冷凍空調和機器施工 9名</b>			
31	Mr. Muhammad Nazimuddin Bin Md Nazir	マレーシア	2020.11～2023.11
32	Mr. Muhammad Amirul Idham Bin Abd Latif	マレーシア	2020.11～2023.11

33	Mr. Mohamad Syazni Mizan	マレーシア	2022.5～2025.5
34	Mr. Mohd Afifi Bin Md Jamil	マレーシア	2022.11～2024.11
35	Mr. Ahmad Syawalluddin Bin Zulkafli	マレーシア	2023.4～2026.4
36	Mr. Mohammad Akmal Bin Mohd Kamil	マレーシア	2023.9～2026.9
37	Mr. Nik Muhammad Fauzan Naim Bin Nor Azan	マレーシア	2023.4～2025.4
38	Mr. Nik Mohamad Syafiq Haikal Bin Nik Al Muhsai	マレーシア	2023.11～2026.11
39	Mr. Mohammad Afiq Bin Mohd Shafie	マレーシア	2023.11～2026.11
<b>溶接 8名</b>			
40	Mr. Bermudez Reymund Cuerbo	フィリピン	2018.1～2023.4
41	Mr. Lozada Jake Bacuna	フィリピン	2018.8～2023.10
42	Mr. Samia Arbnel Aguelera	フィリピン	2019.4～2024.5
43	Mr. Clemente Ian Jayo Noceja	フィリピン	2019.4～2024.5
44	Mr. Librando Rey Alde	フィリピン	2019.11～2023.7
45	Mr. Menor Rudner Laurente	フィリピン	2019.11～2025.2
46	Mr. Fernandez Aljun Java	フィリピン	2022.3～2025.3
47	Mr. Salbibia Johnnel Pabale	フィリピン	2022.3～2025.3
<b>鉄筋施工 15名</b>			
48	Mr. Entero Jayson Molina	フィリピン	2017.10～2023.4
49	Mr. Barcena Darren Borja	フィリピン	2017.12～2023.4
50	Mr. Bodona Diomar Rayan Rafael	フィリピン	2017.12～2023.4
51	Mr. Mangma Reymark Walohan	フィリピン	2017.12～2023.4
52	Mr. Talingdan Jerwin Baisa	フィリピン	2019.1～2024.4
53	Mr. Babida Jimar Berona	フィリピン	2019.1～2024.4
54	Mr. Garcia Dickson Silvania	フィリピン	2019.1～2024.4
55	Mr. Benigay Bryan Pioquinto	フィリピン	2022.3～2025.3
56	Mr. Quirogo Jackson Lanutan	フィリピン	2022.3～2025.3
57	Mr. Ursula Ralph Anthony Caseria	フィリピン	2022.3～2025.3
58	Mr. Acosta Neo Daguno	フィリピン	2022.12～2025.12
59	Mr. Onias Ronel Tilar	フィリピン	2022.12～2025.12
60	Mr. Salcedo Andy Basilio	フィリピン	2022.12～2025.12
61	Mr. Fernandez Nick Jamaybay	フィリピン	2023.5～2026.5
62	Mr. Garcia Jhondel Garcia	フィリピン	2023.5～2025.5
<b>配管 2名</b>			
63	Mr. Muhammad Asyraaf Hamizan Bin Ahmad Zawawi	マレーシア	2020.11～2023.11
64	Mr. Wan Mohammad Imran Fahmi Bin Wan Nor Irman	マレーシア	2020.11～2023.11
<b>型枠施工 3名</b>			
65	Mr. Muhammad Nur Aiman Bin Mohd Sani	マレーシア	2022.4～2025.4
66	Mr. Mohd Firdaus Safwan Bin Musinin	マレーシア	2022.7～2024.7
67	Mr. Muhammad Zamri Bin Aziz	マレーシア	2022.11～2025.11
<b>建具製作 21名</b>			
68	Mr. Angriawan Deny Alfiantoro	インドネシア	2019.3～2024.5
69	Mr. Fahrul	インドネシア	2019.3～2024.5
70	Mr. Lewi Gulid Sambonu	インドネシア	2019.3～2024.5
71	Mr. Muhammad Khaidir Muhammad Rasyid	インドネシア	2019.3～2024.5
72	Mr. Ahmad Fatoni	インドネシア	2022.5～2025.5
73	Mr. Anton	インドネシア	2022.5～2025.5
74	Mr. Yoga Wahyu Putra	インドネシア	2022.5～2025.5
75	Mr. Maulana Ariel Syaputra	インドネシア	2022.5～2025.5
76	Mr. Moch Salam Azidan	インドネシア	2022.11～2025.11
77	Mr. Nursiddiq Widana Al Faruq	インドネシア	2022.11～2025.11
78	Mr. Hamzah Nurzaman	インドネシア	2022.11～2025.11
79	Mr. Sudianto	インドネシア	2022.11～2025.11



80	Mr. Agi Paturohman	インドネシア	2023.4～2026.4
81	Mr. Bimo Satriyo	インドネシア	2023.4～2026.4
82	Mr. Deni Abdul Gani	インドネシア	2023.4～2026.4
83	Mr. Ikhsan Mukhlis Firmansyah	インドネシア	2023.4～2026.4
84	Mr. Rasyid Saefudin	インドネシア	2023.4～2026.4
85	Mr. Muhamad Althaf Ghani Basyarodi	インドネシア	2024.2～2027.2
86	Mr. Irkam Hariyanto	インドネシア	2024.2～2027.2
87	Mr. Setiyo Aji	インドネシア	2024.2～2027.2
88	Mr. Gibran Sava Raditya	インドネシア	2024.2～2027.2
<b>自動車整備 34名</b>			
89	Mr. Sotto Alexander Arquio	フィリピン	2019.9～2023.4
90	Mr. Fernandez Glizaldren Nograles	フィリピン	2019.9～2023.4
91	Mr. Ahmad Syakir Fahmi Bin Mohd Zaki	マレーシア	2020.1～2023.9
92	Mr. Mohd Mazri Bin Mohd Khir Johari	マレーシア	2020.1～2023.8
93	Mr. Muhammad Hakimi Bin Kamardin	マレーシア	2020.1～2024.2
94	Mr. Mohamad Farhan Bin Nasarudin	マレーシア	2020.11～2023.11
95	Mr. Muhammad Fazelie Bin Namberom	マレーシア	2020.11～2023.11
96	Mr. Andrada Jeff Batolina	フィリピン	2022.4～2025.4
97	Mr. Tolentino Ruel Jr. Benigay	フィリピン	2022.4～2025.4
98	Mr. Muhamad Sazali Bin Salimin	マレーシア	2022.4～2025.4
99	Mr. Muhammad Sharir Bin Muhammad Azim	マレーシア	2022.4～2025.4
100	Mr. Muhammad Zulkifli Bin Adnan	マレーシア	2022.4～2025.4
101	Mr. Muhammad Ariff Danish Bin Muhammad Afandi	マレーシア	2022.4～2025.4
102	Mr. Adam Syahrin Bin Nordin	マレーシア	2022.4～2025.4
103	Mr. Muhammad Ariff Bin Rosli	マレーシア	2022.4～2025.4
104	Mr. Muhammad Solehin Bin Ahmad Zakir	マレーシア	2022.4～2025.4
105	Mr. Radin Muhammad Asyraf Bin Radin Mohd Zulkifli	マレーシア	2022.5～2025.5
106	Mr. Pesquera Christian Dioso	フィリピン	2022.7～2025.7
107	Mr. Lim Sheng Shi	マレーシア	2022.8～2025.8
108	Mr. Mohammad Ashraf Bin Mohammad Wajidi	マレーシア	2022.8～2025.8
109	Mr. Ilias Illyasa Bin Mohd Isa	マレーシア	2022.8～2025.8
110	Mr. Quintos Cristopher Valera	フィリピン	2022.10～2025.10
111	Mr. Muhammad Nafis Bin Abdul Aziz	マレーシア	2022.12～2024.12
112	Mr. Ahmad Imran Bin Ibrahim	マレーシア	2023.1～2026.1
113	Mr. Donnathaniel Jules	マレーシア	2023.1～2026.1
114	Mr. Muhammad Nizam Bin Sopri	マレーシア	2023.8～2026.8
115	Mr. Sokhipol Azam Bin Sokhipol Akmam	マレーシア	2023.8～2026.8
116	Mr. Ravin Al Jeyaraman	マレーシア	2023.8～2026.8
117	Mr. Kelvin Chooi Loong Fatt	マレーシア	2023.8～2026.8
118	Mr. Muhammad Affan Amierul Bin Yusriza	マレーシア	2023.9～2026.9
119	Mr. Ahmad Zaki Bin Abdul Latif	マレーシア	2023.9～2026.9
120	Mr. Luqman Nur Hakim Bin Seth	マレーシア	2024.1～2027.1
121	Mr. MUHAMAD AKIF BIN ABDUL MAJAD	マレーシア	2024.1～2027.1
122	Mr. MOHAMAD IRFAN BIN SULAIMAN	マレーシア	2024.1～2027.1
<b>工業包装 24名</b>			
123	Ms. Factor Maria Divina Rano	フィリピン	2018.9～2024.6
124	Ms. Tuanquin Marydel Dexie Pilor	フィリピン	2018.9～2024.6
125	Ms. Batalon Amelia Bo	フィリピン	2020.1～2025.3
126	Ms. Vicente Milagros Gandeza	フィリピン	2020.1～2025.3
127	Ms. Pajarillo Brenda Eugenio	フィリピン	2020.1～2025.4
128	Ms. Banez Jenniefer Teneza	フィリピン	2020.1～2025.4
129	Ms. Blaza Elizabeth Benauro	フィリピン	2020.1～2025.5
130	Ms. Besas Maria Jessica Testado	フィリピン	2020.1～2025.5

131	Ms. Daowan Edlyn Bernadette Edwin	フィリピン	2022.12～2025.12
132	Ms. Millare Laura Fei Laureta	フィリピン	2022.12～2025.12
133	Ms. Barbon Cherrylaine Alagao	フィリピン	2022.12～2025.12
134	Ms. Borong Jessa Mae Bisquera	フィリピン	2022.12～2025.12
135	Mr. Elpa Mark Bernos	フィリピン	2023.2～2026.2
136	Mr. Anical Dario Alunday	フィリピン	2023.2～2026.2
137	Mr. Rahmat Ardiansyah	インドネシア	2023.4～2027.4
138	Mr. Randika Sejati	インドネシア	2023.4～2027.4
139	Mr. Gilang Judanto Ibnu Adytiyar	インドネシア	2023.4～2027.4
140	Ms. Benemerito Cristine Joy Bringas	フィリピン	2023.7～2026.7
141	Ms. Callejo Maybelle Silario	フィリピン	2023.7～2026.7
142	Ms. Reyes Julie Ann De Aro	フィリピン	2023.7～2026.7
143	Ms. Bosque Evelyn Balayan	フィリピン	2023.7～2026.7
144	Ms. Montilla Kim Camile Martinez	フィリピン	2023.7～2026.7
145	Ms. Montorio Jessa Ta A	フィリピン	2023.7～2026.7
146	Ms. Fernandez Geralyn Samillano	フィリピン	2023.7～2026.7
<b>射出成型 5名</b>			
147	Mr. Arquion Allen Kris Fernandez	フィリピン	2019.2～2024.4
148	Mr. Magsanay Mark Anthony Marabe	フィリピン	2019.2～2024.4
149	Mr. Revilla John Carlo Garganta	フィリピン	2019.2～2024.4
150	Mr. Bermillo Jeremi John Moscosa	フィリピン	2024.2～2027.2
151	Mr. Carrera John Emmanuell Fernandez	フィリピン	2024.2～2027.2
<b>鉄工 15名</b>			
152	Mr. Alfin Musthofa	インドネシア	2022.5～2025.5
153	Mr. Burhanudin Rahman	インドネシア	2022.5～2025.5
154	Mr. Rahardi Firman Halim	インドネシア	2022.5～2025.5
155	Mr. As Ari	インドネシア	2022.5～2025.5
156	Mr. Ahmad Toha	インドネシア	2022.5～2025.5
157	Mr. Emul Mulyana	インドネシア	2022.11～2025.11
158	Mr. Mahatma Damar Jati Supajar	インドネシア	2022.11～2025.11
159	Mr. Deni Fajri Setiawan	インドネシア	2023.4～2027.4
160	Mr. Rizki Virdaus	インドネシア	2023.4～2027.4
161	Mr. M Zanky Dausti	インドネシア	2023.4～2027.4
162	Mr. Yoga Prayogo	インドネシア	2024.2～2027.2
163	Mr. Rahmawan Hidayat	インドネシア	2024.2～2027.2
164	Mr. Dimas Fajar Ramadhan	インドネシア	2024.2～2027.2
165	Mr. Alif Dityas Pangestu	インドネシア	2023.6～2025.6
166	Mr. Abdul Rajak Ipaenin	インドネシア	2023.6～2025.6
<b>防水施工 3名</b>			
167	Mr. Paat Junel Babida	フィリピン	2023.6～2025.6
168	Mr. Domingo Mark Hona	フィリピン	2023.5～2026.5
169	Mr. Molina Harold Balagulan	フィリピン	2023.5～2026.5
<b>牛豚食肉処理加工業 2名</b>			
170	Ms. SANCIO SHIENA JAGOCOY	フィリピン	2023.9～2026.9
171	Ms. MALUNES MAY ERICA CORREA	フィリピン	2023.9～2026.9
<b>介護 33名</b>			
172	Ms. Nguyen Thi Thuy Quyen	ベトナム	2020.10～2023.10
173	Ms. Le Thi Duyen	ベトナム	2020.10～2023.10
174	Ms. Lang Thi Phuong Dung	ベトナム	2020.10～2023.10
175	Ms. Tran Thi My Hue	ベトナム	2020.10～2023.10
176	Ms. Huynh Thi Ngoc Thuy	ベトナム	2020.10～2023.10
177	Ms. Danh Thi Thu Mai	ベトナム	2020.10～2023.10
178	Ms. Villanueva Joyce Pesca	フィリピン	2020.12～2023.12
179	Ms. Sombong Ma Eden Eusebio	フィリピン	2020.12～2023.12
180	Ms. Benoyaco Eve Concepcion Dinulung	フィリピン	2022.4～2025.4

181	Ms. Dumandan Alexandra Claudette Santos	フィリピン	2022.4～2025.4
182	Mr. Junas` Jasper Junsay	フィリピン	2022.6～2025.6
183	Ms. Venzon Marissa Veniegas	フィリピン	2022.6～2025.6
184	Ms. Campos Christlyn Palmos	フィリピン	2022.6～2025.6
185	Ms. Espenorio Winielyn Atadora	フィリピン	2022.6～2025.6
186	Ms. Javier Jovelyn Montano	フィリピン	2022.6～2025.6
187	Ms. Millan Aiza Gladys Cordova	フィリピン	2022.6～2025.6
188	Mr. Ocura Abe Raph Desuyo	フィリピン	2022.6～2025.6
189	Ms. Villarosa Jeza Sagang	フィリピン	2022.6～2025.6
190	Ms. Cacnio Hazel Dawn Corbeta	フィリピン	2022.6～2025.6
191	Ms. July Lin Lin	ミャンマー	2022.7～2025.7
192	Ms. May Mie Aung	ミャンマー	2022.7～2025.7
193	Ms. Mi Yadana Mon	ミャンマー	2022.7～2025.7
194	Ms. Soe Soe Mon	ミャンマー	2022.7～2025.7
195	Ms. Yin Mon San	ミャンマー	2022.7～2025.7
196	Ms. Khadijah Uswah Mujahida Akbari	インドネシア	2022.7～2025.7
197	Ms. Ghina Septiany Nurul Wahdah	インドネシア	2022.7～2025.7
198	Ms. Nonika	インドネシア	2022.7～2025.7
199	Ms. Puspita Surbakti	インドネシア	2023.4～2026.4
200	Ms. Melisa Simanjuntak	インドネシア	2023.4～2026.4
201	Ms. Wah Wah Aung	ミャンマー	2023.11～2026.11
202	Ms. Thae Mar Htwe	ミャンマー	2023.11～2026.11
203	Ms. Aye Yadanar Moe	ミャンマー	2023.11～2026.11
204	Ms. Du Ay Korine May Ortega	フィリピン	2024.3～2027.3
<b>とび22名</b>			
205	Mr. Mendoza Jomar Rico	フィリピン	2022.3～2025.3
206	Mr. Revilla John Vergel Garganta	フィリピン	2022.3～2025.3
207	Mr. Nguyen Quang Ninh	ベトナム	2022.5～2025.5
208	Mr. Bui Van Tuan	ベトナム	2022.5～2025.5
209	Mr. Nguyen Canh Gioi	ベトナム	2022.5～2025.5
210	Mr. Muhammad Jaini	インドネシア	2022.6～2025.6
211	Mr. Ronaldi	インドネシア	2022.6～2025.6
212	Mr. Wahyudi	インドネシア	2022.6～2025.6
213	Mr. Yazid Al Bastomi	インドネシア	2022.6～2025.6
214	Mr. Zul Fahmi	インドネシア	2022.6～2025.6
215	Mr. Kenzo Lorenzo Da Concencao De Oliveira	インドネシア	2022.6～2025.6
216	Mr. Muhammad Aniq Azim Bin Zazuli	マレーシア	2023.3～2026.3
217	Mr. Muhamad Zaki Azrin Bin Zainudin	マレーシア	2023.3～2026.3
218	Mr. Haddad Alwi Rahmayahya	インドネシア	2023.7～2026.7
219	Mr. Bambang Abdul Syahid	インドネシア	2023.7～2026.7
220	Mr. Agisna Nurhadi	インドネシア	2023.7～2026.7
221	Mr. Alkatri Moh Musairi	インドネシア	2023.7～2026.7
222	Mr. Hoki Darusman	インドネシア	2023.7～2026.7
223	Mr. Muhamad Ikhsanudin Al Maruf Ms	インドネシア	2023.7～2026.7
224	Mr. RADEN JIAN AL FAJAR	インドネシア	2023.10～2026.10
225	Mr. MUHAMMAD IKHSAN AKBAR	インドネシア	2023.10～2026.10
226	Mr. M RIFKI NURDIN FIRDAUS	インドネシア	2023.10～2026.10
<b>さく井2名</b>			
227	Mr. Serbito Jester John Talledo	フィリピン	2022.7～2025.7
228	Mr. Bugtong Efren Decena	フィリピン	2022.7～2025.7
<b>電子機器組立て1名</b>			
229	Mr. Muhammad Syahmi Bin Zakaria	マレーシア	2023.9～2026.9
<b>コンクリート製造3名</b>			
230	Mr. Ginete Ronel Larry Rosquillo	フィリピン	2023.12～2026.12

231	Mr. Cuarte Klent Cepida	フィリピン	2023.12～2026.12
232	Mr. Valeriano Jelord Sudlon	フィリピン	2023.12～2026.12

【実習科目及び国別研修生数】

実習科目	国 別					合計
	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	ベトナム	
機械保全		2		3		5
建設機械施工	13	5				18
塗装				7		7
冷凍空気調和機器施工		9				9
溶接				8		8
鉄筋施工				15		15
配管		2				2
型枠施工		3				3
建具製作	21					21
自動車整備		28		6		34
工業包装	3			21		24
射出成型				5		5
鉄工	15					15
防水施工				3		3
牛豚処理加工業				2		2
介護	5		8	14	6	33
とび	15	2		2	3	22
さく井				2		2
電子機器組立て		1				1
コンクリート製造				3		3
合計	72	52	8	91	9	232

2) 受託事業

1) 特定技能

No	氏 名	国 名	期間
<b>耕種農業(施設園芸) 2名</b>			
1	Mr. Preza Zulueto II Talledo	フィリピン	2022.1～2027.1
2	Mr. Barreyro Darwin Bejarin	フィリピン	2022.1～2027.1
<b>耕種農業(畑作・野菜) 12名</b>			
3	Mr. Paborada Noel Jr Bulanon	フィリピン	2022.12～2027.12
4	Mr. Requiron Steniel Cabayao	フィリピン	2022.12～2027.12
5	Mr. Baldemor Deo Jomar Tobias	フィリピン	2021.8～2026.8
6	Mr. Caampued Julie Nunez	フィリピン	2023.1～2024.1

7	Mr. Labaoan Aquilles Balueg	フィリピン	2023.6～2024.5
8	Mr. Tesoro Tom James Isao	フィリピン	2023.7～2028.7
9	Mr. Alfaro Santy Jay Pilor	フィリピン	2023.7～2028.7
10	Mr. Samsul Gay	インドネシア	2023.9～2028.9
11	Mr. Abdul Rokhman Rokhim Soleh	インドネシア	2023.12～2028.12
12	Mr. Deo Pratiskatama	インドネシア	2023.12～2028.12
13	Mr. Tarrazona Jomaver Telebrico	フィリピン	2023.12～2028.12
14	Mr. Claridad Jhon Ray Relota	フィリピン	2023.12～2028.12
<b>耕種農業(果樹) 2名</b>			
15	Mr. Heri	インドネシア	2024.1～2029.1
16	Mr. Muhamad Miladi Aminyoga	インドネシア	2024.3～2029.3
<b>畜産農業(養豚) 9名</b>			
17	Mr. Longenos Freddie Juan	フィリピン	2022.1～2023.9
18	Mr. Magala Arnel Tan	フィリピン	2022.1～2023.9
19	Mr. Buhian James Albos	フィリピン	2022.1～2023.9
20	Mr. Tadeo Jhon Jovi Cada	フィリピン	2022.1～2023.9
21	Mr. Echipare Cristopher Rombawa	フィリピン	2022.1～2023.9
22	Mr. Bendiola Jamiel Carlos	フィリピン	2022.8～2023.9
23	Mr. Valeros Dexel Pilarta	フィリピン	2022.8～2023.9
24	Mr. Futosa John Steven Itulid	フィリピン	2023.5～2028.5
25	Mr. Tabinas Raymart Merced	フィリピン	2023.8～2028.8
<b>畜産農業(養鶏) 5名</b>			
26	Mr. Ursula Carlo Castaneda	フィリピン	2023.2～2028.2
27	Mr. Tanacio Frodan Ablaza	フィリピン	2023.3～2028.3
28	Mr. Telebrico Gelo Barcelo	フィリピン	2023.3～2028.3
29	Mr. Astrande Arman Tamo	フィリピン	2023.3～2028.3
30	Mr. De Villa Alvin Magboo	フィリピン	2023.3～2028.3
<b>溶接 3名</b>			
31	Mr. Cuizon Reynaldo Jr Yangyang	フィリピン	2022.1～2027.1
32	Mr. Dacumos Reychon Villegas	フィリピン	2022.12～2027.12
33	Mr. Bermudez Reymund Cuerdo	フィリピン	2023.6～2028.6
<b>鉄筋施工 9名</b>			
34	Mr. Ginete Jason Rey Dolloso	フィリピン	2022.9～2023.9
35	Mr. Dupaan Andrew Romero	フィリピン	2022.9～2027.9
36	Mr. Callena Nomer Cacho	フィリピン	2022.12～2027.12
37	Mr. Fernandez Florencio Jr. Jamaybay	フィリピン	2022.10～2027.10
38	Mr. Domingo Samuel Jr Tadeo	フィリピン	2022.12～2027.12
39	Mr. Barcena Darren Borja	フィリピン	2023.7～2028.7
40	Mr. Bodona Diomar Rayan Rafael	フィリピン	2023.7～2028.7
41	Mr. Mangma Reymark Walohan	フィリピン	2023.7～2028.7
42	Mr. Entero Jayson Molina	フィリピン	2023.7～2028.7
<b>建設機械施工 7名</b>			
43	Mr. Mohamad Faizal Azlizam Bin Abdul Talib	マレーシア	2022.4～2027.4
44	Mr. Pramudya Eka Syachriar	インドネシア	2023.3～2028.3
45	Mr. Pendik Jatmiko	インドネシア	2023.3～2028.3
46	Mr. Isam Fauzi	インドネシア	2023.3～2028.3
47	Mr. Ismanto	インドネシア	2022.4～2023.9
48	Mr. Hasrul	インドネシア	2022.4～2023.9
49	Mr. Acebo Jerson Montilla	フィリピン	2023.12～2028.12
<b>自動車整備 5名</b>			
50	Mr. Sotto Alexander Arquio	フィリピン	2023.4～2028.4
51	Mr. Fernandez Glizaldren Nograles	フィリピン	2023.4～2028.4
52	Mr. Macaya Jan Rafael Salhay	フィリピン	2021.10～2026.1

53	Mr. Trube Joemar Ocumen	フィリピン	2022.5～2027.5
54	Mr. Muhammad Redzuan Bin Burhan	マレーシア	2023.1～2028.1
<b>牛豚食肉処理加工業 2名</b>			
55	Ms. Sibuyan Easter Cindy Dizon	フィリピン	2023.2～2024.2
56	Ms. Francisco Julie Ann Penafiel	フィリピン	2023.2～2028.2
<b>飲食品製造業 2名</b>			
57	Mr. Mochamad Dading Mufasil	インドネシア	2023.4～2028.4
58	Mr. Syukur Andriawan	インドネシア	2023.4～2028.4
<b>介護 2名</b>			
59	Mr. Aristo Januardi Amril	インドネシア	2021.12～2026.12
60	Ms. Villanueva Joyce Pesca	フィリピン	2023.12～2028.12

【実習科目及び国別研修生数】

実習科目 \ 国別	インドネシア	マレーシア	フィリピン	合計
耕種農業（施設園芸）			2	2
耕種農業（畑作・野菜）	3		9	12
耕種農業（果樹）	2			2
畜産農業（養鶏）			5	5
畜産農業（養豚）			9	9
溶接			3	3
鉄筋施工			9	9
建設機械施工	5	1	1	7
自動車整備		1	4	5
牛豚食肉処理加工業			2	2
飲食品製造業	2			2
介護	1		1	2
合計	13	2	45	60

## 総括

世界の平均気温が観測史上初めて、年平均で1.5度以上上昇していたと、コペルニクス気候変動サーブिसの研究で明らかになった。温暖化が一層進む中、森林保全等の体験活動やセミナー、海外現場視察、イベントへの出展などの地球規模での解決の必要性を伝える啓発活動を実施し、1万人以上が参加。

創立から40・50・60年を支えた第2期支援者層から、70年・80年目を支える第3期支援者層を構築できるかどうか、すでに大きな曲がり角に立っている。以下の現状に対して、徹底した攻めの姿勢で臨んでいるものの、当面は厳しい状況が続くと思われる。引き続き、なんとしてでも支えたい国内外の現場からモノを考える、現場第一主義を貫いた啓発普及事業を進めたい。

会員のほか寄付者を含む支援者の年齢構造は、年を追うごとに「逆ピラミッド型」になり、総数も増えていない。「個人会員の平均年齢が70歳」を超え、年々上昇している点、寄附者の平均年齢も70歳を若干下回る程度である点、オイスカ全体でダイレクトメールを出せる名簿が「わずか7,000件程度」しかないという点に対して、強い危機感を持っている。

2021年度に上記分析をして以来、平均年齢以下とくに若年層の理解者・支援者を増やさねばならぬことを最重要課題と掲げ、長年の弱点の「個人対策」に取り組んできた。支援者拡大策の一つとして、主に個人向けに実施している3年目の季節募金も夏・冬2度実施した結果、新規収入策としての位置を確立できた。しかし、『コンタクトできる「友人」=潜在的寄附者』を継続的に増やす仕組みをつくり、今年度ダイレクトメール送付先3,000人増やす目標を掲げたが、新しい送付先、寄付者数が大幅に増えたとは言えない。

主要拠点での活動はコロナ禍前の状態に戻った。啓発普及事業全体として年15,000人程度と接触している。しかし、2000年代は30,000人程度だったことと比べると、全国各拠点独自の対外企画力・接触力・集客力は大幅に落ちている。また、「公募型」より「事実上会員限定型」行事が散見される。ダイレクトメール送付先名簿が増えない一要因でもある。

「広報が弱い」「知名度が低い」と昔から指摘されているが、HPの更新頻度の大幅増、SNSの活用更新、オンラインを活用した活動報告会など、トップスピードで改善を図ってきた。HPやSNSへのアクセス回数などは堅調に増えている。多くのNGO・NPOなどからなる「寄付月間推進委員会」や報道関係者など外部識者からは評価を受けている。しかし、SNSを活用しない世代が中心のオイスカ支援者層、本部・支部・推進協議会に1,000名に迫る役職員からは、さらなる広がりを生むことは難しいジレンマがある。もちろん、職員一人一人の拡散努力不足でもある。

会費収入は、コロナ禍前の3年間は微増したが、それ以降は微減が続いている。会員数はすでに4,000件を下回り、入金ベースでは3,800件を下回る。会員「獲得力」は10年前の年平均約300件から低下し、いまは150件程度の状況。

そもそもオイスカは、拠点の研修センターが西日本寄りであることから、東日本の会員数が少ない「西高東低」と、個人・法人数の比率が半々（法人数が多い）などの特徴があるが、首都圏・関西の

大都市圏での会員増強は依然として進まず、地盤沈下が著しい。

自動的に会員が増えることはない。まず、職員一人一人が「会員募集に意欲を持つ」「いつか会員になってもらおうと思って接触する」「会員になってほしいと口に出す」とことを、折に触れて確認する必要がある。

### 重要数値サマリー

内容	2023 年度目標	2023 年度実績	(カッコ内は前年度対比)
各種活動への参加者数 *	8,000 人	17,262 人	(+9,502)
賛助会員数	4,300 件	3,863 件	(▲230)
新規入会者数	250 件	151 件	(▲19)
退会者数	100 件	385 件	(+227)
賛助会員受取会費収入	135,623,500 円	124,802,000 円	(▲3,834,000)
年間寄附者数	1,500 件	1,272 件	(+52)
新規寄附者数	300 件	226 件	(+35)
受取寄附金収入	195,150,000 円	209,067,746 円	(▲19,554,235)
保有有効リスト数	8,000 件	6,911 件	(▲411)
コンタクト可能件数 (郵送・SNS・YouTube・メルマガ含)	18,000 件	15,398 件	(+236)

\*本部・TC・支部で企画した各種活動への参加者のべ人数

## 1. 講演会・セミナー等の開催

### ① オイスカ支援連携サミット

開催日：令和5年11月8日（水）

会 場：四国研修センター／ホテルパールガーデン

内 容：

OB 連携推進の取り組みと進捗報告、今年度制度変更が予定されている技能実習制度に対する課題・対策、財政健全化 10 カ年計画の数値目標の見直しの 3 項目について話し合った。同日開催した「四国の集い」において、30 年以上にわたりオイスカの研修生・技能実習生の受け入れを行ってきた株式会社竹内農場の竹内一之代表取締役と、訪日研修生 OG で現四国研修センター指導員のガディによる報告会を実施。

### ② 「地球環境を考えるトークイベント 2023 春」

開催日：令和5年5月16日（火）

会 場：オンライン開催

参加者：120 名

内 容：

タイ南部ラノーン県で 2022 年 3 月から 3 カ年の計画で「マングローブ林の再生・保全と地域住民の収入向上プロジェクト」（外務省 日本 NGO 連携無償資金協力事業）を実施。事業の現状や展望のほか、1999 年から続く 2000ha のマングローブ林再生の歴史や背景、今後の展望などについて、プロジェクト地で活動に取り組む住民グループのリーダーらと共に、事業の指導にあたる行政担当者が語った。



## ③ 「地球環境を考えるトークイベント 2023 秋」

開催日： 令和5年11月23日（木）

会 場： 大阪／オンライン開催

参加者： 130名

内 容：

フィリピン北部は、100年以上前の日本のような見渡す限りの「はげ山」が広がり、雨季は台風による洪水や風害、土砂崩れ、乾季は無数の山火事や干害、地震も頻発する国内有数の貧困地帯です。この過酷な環境で、オイスカ訪日研修生OBであるアブラ農林業研修センターのデルフィン・テソロ所長が、人々の生活の質を少しでもあげようと努めてきた37年間の取り組みとこれからについて語った。

講演会等の行事は以下のとおり。

組織名	事業名	開催日	参加者数	開催場所
北海道支部	砂漠化防止プロジェクト報告会	9月9～11日	70名	札幌エルプラザ研修室ほか
富山県支部	活動報告会	5月24日	43名	富山県民会館（富山市）
山梨県支部	やまなし水源地ブランド推進協議会 令和4年度（第11回）総会	7月12日	31名	恩賜林記念館（甲府市）
	甲州市・オルビスの森活用協議会 第一回総会	7月18日	13名	甲州市役所（甲州市）
	第28回全国ハープサミット早川大会「森のハープと人」～水源の森からのメッセージ	9月16,17日	97名	早川町民会館（早川町）
	やまなし水源地ブランドシンポジウム2024「眠れる宝の山～耕作放棄地を活かせ～」	1月26日	60名	恩賜林記念館（甲府市）
	富士山の森づくり推進協議会 2023年度総会	1月30日	24名	東京農業大学（世田谷区）
中部日本後援会	オイスカ活動報告会	2月28日	35名	東桜会館（名古屋市）
豊田推進協議会	樋泉先生講演会	3月6日	25名	中部日本研修センター
オイスカ中部日本研修センター	四日市大学講演会	6月30日	200名	四日市大学
愛知県支部	アラル海トークイベント	6月17日	60名	中部日本研修センター
名古屋北・名古屋東推進協議会	中部日本研修センター見学会	10月19日	14名	中部日本研修センター
関西支部	地球環境を考えるトークイベント 2023 秋	11月23日	130名	国民会館（大阪市）
四国支部	30周年記念式典&トークイベント	6月22日	200名	ユープラザうたづハーモニーホール
	オイスカ四国のつどい	10月11日	300名	ホテルパールガーデン
西日本支部	インドネシア県知事会研修	9月19日	40名	センター、朝倉地区
	西日本支部運営委員会	9月29日	12名	九州電力会議室

オイスカ熊本推進協議会報告会	10月19日	60名	熊本市内ホテル
----------------	--------	-----	---------



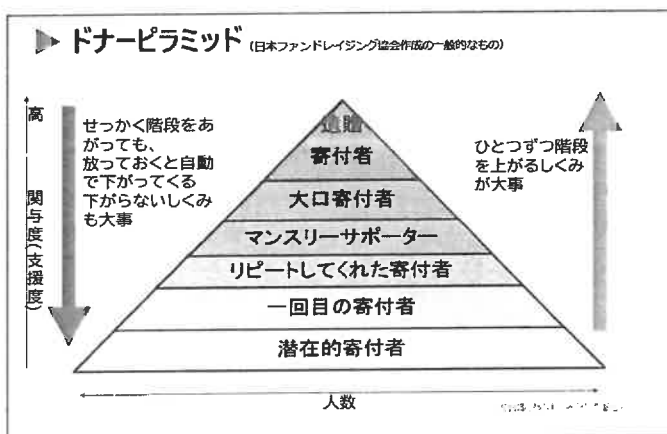
30周年記念式典&トークイベント (四国支部)



アラル海トークイベント (愛知県支部)

## 2. 資料の作成・配布・インターネットでの情報発信

事業や組織を成長発展させることと、財源獲得は融合化させて考えていかなければならず、ファンディングの大事な視点となる。個人や法人からの支援は、事業を通じて得られる接点（講演会やイベント参加者）を戦略的に活用する観点が必要である。



日本ファンディング協会作成の一般的なドナーピラミッドによると、支援度と人数を指標にした場合、支援者（ドナー）は左のようなピラミッド構造になる。

最重点目標： 『コンタクトできる「友人」＝潜在的寄附者』を継続的に増やす仕組みをつくる

### (1) ファンディングのための現状理解と課題共有のための内部説明会の実施

会員や寄附者動向についての役員会での報告、季節募金をはじめとしたファンディングについての職員向けの説明を計5回実施。目標値25回に対して20%にとどまった。退会者数大幅増、新規入会数減の影響で賛助会員数は4000件を大きく下回り、賛助会員受取会費収入減となった要因のひとつは、全職員100人、13支部、44推進協議会、役員1,000人のネットワークが活用しきれなかったことにある。

## (2) デジタルツールを活用した新しい人へのコンタクト

## ① ホームページでの情報発信強化

ホームページとSNSを情報発信ツールと捉えているが、情報を入れる箱としてのホームページ、箱の中の情報を拡散する役割としてのSNSとしている。ホームページは頻度高く更新し、情報ボックスとして活用してきた。結果、年間訪問者数は令和4年度と比較して174%、イベント数は127%の伸び。入会・寄附者数は143(R4度)から185に伸び、問合せ数は248(R4度)から若干の伸び。ニュース、イベント、ブログは頻繁に更新しているが、更新が滞っている活動案内の更新頻度を高め、入会・寄附者数と問い合わせ数の増加を図っていきたい。

	年間訪問者数	イベント数 (訪問者数×閲覧ページ数)	HPからの入会・寄附者数	HPからの問い合わせ数
2023年度 目標	60,000	—	200	350
(R5) 実績	88,024	666,269	入会11、寄附174	258

## ② Facebook

支援者とのコミュニケーションツール、情報拡散ツールとしてイベントや活動情報等を投稿し、月平均投稿数は2022年度の22回に比べ、2023年度は32回とした結果、フォロワー数は目標を達成したもののリーチ数は目標未達。Facebookはツールの特性上、情報拡散の面では弱いため、拡散性の高いXとの併用により、さらに認知度拡大とファン拡大に努める。

内容	フォロワー数	リーチ数 (投稿を見た人)
2023年度 (R5) 目標	3,300	3,500 (月平均)
実績	3,474	2,605 (月平均)

## ③ X

「組織の認知度獲得 (潜在支援者含めて)」を目的とし、ツールの特性の「拡散」に期待し、最新のニュースやイベント、活動情報など、今起きていることをリアルタイムに発信。

内容	フォロワー数	エンゲージメント率
2023年度 (R5) 目標	1,800	5.0% (月平均)
実績	1,686	—

## ④ Instagram

投稿回数が増えたことで、リーチ数が伸び、インタラクションの増加にもつながった。フォロワー数は目標を上回ったものの、拡散力を期待する場合、2000が目安となるため、投稿数、内容を工夫する。

内容	フォロワー数	投稿数	リーチ数	インタラクション (いいね、保存、コメント)
2023年度 (R5) 目標	500	50	6,000	100 (月平均)
実績	564	91	15,895	117 (月平均)

## ⑤ YouTube チャンネル「OISCA Japan」

オンラインイベント、トークイベント動画を中心に21本投稿。視聴回数、インプレッション&クリック数、チャンネル登録者数ともに目標に届かなかった。ブログでも動画のURLを積極的に掲載したものの、ブログ自体の閲覧者数があまり伸びないため、YouTube掲載の動画の拡散が弱いことも起因。視聴回数、登録者数を伸ばすため本来の活動と離れた内容での投稿は本意ではないため、伝えたいことがきちんと伝わる動画の制作を引き続き進めていきたい。

内容	視聴回数	投稿数	インプレッション&	チャンネル登
----	------	-----	-----------	--------

			クリック数	録者数
2023年度 (R5) 目標	15,000	20	5.0%	1,500
実績	12,439	21	2.7%	1,269

## ⑥ Facebook 広告

夏募金、冬募金実施期間中に実施。この広告閲覧後、すぐ寄附につながることは考えにくく、ホームページやSNSの投稿を閲覧し、総合的に判断した結果、寄附につながるものと想定している。有料広告は、これまでリーチできなかった人に届き、「フォロー」につながり、継続的に情報を届けることが可能になることから、長期的視点、投資的視点で広告を捉えていきたい。

## ⑦ メールマガジン

2022年度末に登録者数1,630だったが、2023年度末に1,494に減少。メールマガジンのシステムは、2000年5月から「まぐまぐ!」の無料版を使用しているが、開封率やクリック率の数値把握ができないこと、画像表示ができないことから、新システムへの移行を計画していたが、現段階で手付かずの状況。2024年度に優先事項として取り組む予定。

## ⑧ 広報ツールの制作

新規に寄附に特化したランディングページを制作した。マンスリーサポーター募集をメインとしたページとしたが、1月からの3ヵ月間のページ訪問者数が68と少なく、実際の入会はゼロという状況。オンラインイベント、各種申込時画面に「マンスリーサポーター募集」の記載をし、目にする機会を増やすことでマンスリーサポーター入会に結び付けたい。

## (3) 新規層を意識したオンラインイベントの実施

オイスカ活動の認知拡大と新規層の開拓を目的に実施。8月実施のPNGと12月のウズベキスタンの2回は、オイスカ活動紹介を全面に出さない対象国の文化や魅力紹介などの内容で実施し結果、「初めての関わり」の参加者が他の回に比べると多く、また、10代～30代の参加者層も多くなった。結果的に国際協力やNGO関心層以外の新規層に届けられるイベント企画となったと考えられる。

内容	参加延べ人数	実施回数	「初めての関わり」
2023年度 (R5) 目標	200	8	
実績	188	7	85人

## 第1回 (国内センター)

- 日 時：2023年6月10日14:00～15:00
- テーマ：「2023年度のオイスカ海外研修生を紹介！有機農業などを学ぶ13ヵ国24人の話を聞いてみよう！！」＜国内センター＞
- 報告者：国内研修センタースタッフ、研修生ほか

## 第2回 (パプアニューギニア)

- 日 時：2023年8月17日19:00～20:00
- テーマ：「駐在歴30年！NGO海外駐在員が語るパプアニューギニアの日常や不思議な体験！」＜海外の事業紹介＞
- 報告者：パプアニューギニア駐在代表 荏原美知勝ほか

## 第3回 (グローバルフェスタ)

- 日 時：2023年10月1日12:45～13:45
- テーマ：「とにかく社会をよくしたい学生集合！2000年生まれのオイスカ女子と考える国際協力」

<インターン企画>

■報告者：海外事業部 青山優菜、学生インターン 中屋美里

**第4回（ウズベキスタン）**

■日時：2023年12月9日19:00～20:00

■テーマ：「ふしぎ発見！ウズベキスタン体験記～湖の底に木を植える国～」<海外の事業紹介>

■報告者：プロジェクトコーディネーター 富樫智、海外事業部 青山優菜

**第5回（海岸林再生プロジェクト）**

■日時：2024年1月27日11:00～12:00

■テーマ：「\今、どうなってる？名取市の海岸林／～東日本大震災復興支援「海岸林再生プロジェクト」<国内の事業紹介>

■報告者：啓発普及部 吉田俊通、浅野奈々穂 ほか

**第6回（国内センター）**

■日時：2024年2月17日14:00～15:00

■テーマ：「やる気パワー全開！～日本で学んだオイスカ海外研修生の目標を聞く」<国内センター>

■報告者：国内各研修センタースタッフ、研修生 ほか

**第7回（国内センター）**

■日時：2024年3月15日19:00～20:00

■テーマ：「海外だけじゃない！国際協力 NGO オイスカの国内での環境活動 ～全国のオイスカ学生インターン報告会&交流会」<インターン企画>

■報告者：学生インターン 中屋美里、松本みらい、荒川良寛、和泉壮汰

(4) 多様なファンドレイジング機会の設定

ファンドレイジング機会として季節募金を年2回実施。2023 夏募金は、目標 700 万円に対し 9,160,493 円、2023 冬募金は、目標 1000 万円に対し 8,396,275 円となった。季節募金は、寄附収益増の目的の他に、支援者の裾野を広げる目的でも実施。そのため、SNS でも積極的に発信し、新規寄附者増と会員以外の寄附増を狙っている。会員からの寄附は一定程度あり、さらに寄附増を狙う場合、新規と会員以外からの寄附増が必須。全体に占める会員以外の比率は、件数ベースで 52% (2023 冬) となり、増加傾向。新規寄附者数は伸びず、39 人 (2023 冬) に留まった。いかに新規寄附者を増やすかが今後の課題。

(5) 新規大型寄付獲得のための海外・国内法人対策

今期も法人からの新規大型寄付 (300 万円以上) は完全に伸び悩み、単年度寄付 1 件に留まる結果となった。問い合わせ数も極めて少ない状況が 5 年ほど続いていることから、法人側のニーズは依然として低調と考えざるを得ない。しかし、全国的にみると法人側との直接接回数を決して多くない点を改善し、個々のニーズを探る必要がある。なお、カーボンニュートラル、カーボンオフに関する問い合わせが一定数続いた時期はあったが、すでにほぼりは冷めた。植栽規模など複数要因から、当法人として取り組むのは不可能と判断している。

(6) 支援者情報管理システム (セールスフォース) データの有効活用

各支部での閲覧は制限をかけており、閲覧可能なのは所属の会員のみとなっていることから、ドナーピラミッドの階層を上げることを意識したファンドレイジングができにくい環境にある。情報漏洩を

防ぐ目的での閲覧制限であるが、この制限についても検討が必要。

セールスフォース（支援者管理システム）は、一般的には顧客関係性マネジメントと言われており、会員管理は一部の機能に過ぎないが、オイスカでは、2008年に導入した当初から会員管理用システムという認識が強くある。職員の意識醸成のための内部説明会の実施ができなかったことが未達成にとどまった理由。

#### （7） マスメディア等への露出

ミヤテレ「Oh! バンデス」の番組で、海岸林再生プロジェクトの現場などでタイ ラノーン県の漁民リーダーが研修をした模様が約10分間放映された。その他、新聞等に23回掲載された。目標値30回以上に対して未達。実績例：河北新報、朝日新聞三河版、西日本新聞、中日新聞、読売新聞、矢作新報、四国新聞、静岡新聞、愛三時報、三河新報、岐阜新聞、北日本新聞、かがわ経済レポート

#### （8） 各種広報ツールの制作

イベントへの初参加など、関係性が薄い人へのオイスカ理解を深めてもらうツールとしてリーフレットを新規に制作し、支部や研修センターで積極的な配布を呼び掛けた。クイズの答えが掲載されているサイトへの流入数が868、新規ユーザー数675、サイト公開の11月1日から年度末までの期間中で15位となった。5ヵ月間の配布枚数は5000枚程度と考えられ、うち、1割程度がサイトを訪れたと思われる。バブルチャートの左下への導線となるツールとなっていると思われる。

### 3. 森林整備活動

オイスカが進める森林整備活動等は、企業と協働し、植栽、間伐といった地域のニーズに即した森林整備や里山再生活動を行っている。同時に日本の林業を支え、持続可能な社会を目指すために国産木材の利用や森林の活用を促進すると共に、その循環の仕組みづくりに取り組んでいる。

	2023年度計画	2023年度実績
参加人数	3,320人	2,228人

#### （1） 持続可能な森林経営を通じた地球環境の保全

##### ① 企業等との協働による森林保全活動

事業名	実施月	活動内容	参加者数	活動場所
富士山の森づくり	通年	獣害防止対策ネット補修、鳥類調査など	638名	山梨県鳴沢村
甲州市・オルビスの森づくり	11, 12月	鹿よけネットの撤去、環境教育プログラム体験、除伐体験など	28名	山梨県甲州市
本田技研工業 秩父の森づくり	6, 10月	下草刈り、伐倒体験、丸太切り体験	165名	埼玉県秩父市
ライオン山梨の森づくり	5, 7, 10月	堆肥用落ち葉集め、小樹木の移植、林内歩道整備	199名	山梨県山梨市

東急ホテルズ グリーンコインの森	6, 11 月	獣害対策ネットの運び上げ、除 伐体験と耕作放棄地での農作業 など	69 名	山梨県丹波山村
プロネクサスの森	5, 12 月	植林、ベンチづくり	15 名	山梨県道志村
三菱自動車工業 パジェロの森	4, 9 月	歩道整備、間伐体験など	152 名	山梨県早川町
フォレスターズスクール (中部電力株)	2 月 3 日	森林学習、作業体験	17 名	中部日本研修セ ンター
豊洲市場「ゴミ 0 デー」	5 月 20 日	豊洲市場内の水産卸売場棟 (7 街 区)、水産仲卸売場棟 (6 街 区)、青果棟 (5 街区) の 3 つの 構内の清掃活動	10 名	豊洲市場構内
北海道における緑の募金 運動に関する協定式	3 月 25 日	公益社団法人森と緑の会 (北海 道地区・緑の募金所管法人) と の緑の募金運動および北海道ゼ ロカーボン活動の連携・促進に 係る協定の署名式	20 名	札幌パークホテ ル

## ②全国支部組織の環境保全活動

組織名	事業名	開催日	参加 者数	活動場所
北海道支部	四季の森と自然とのふれあい 森の保全活動 in えこりん村(春)	6 月 10 日	38 名	えこりん村の森 (恵庭 市)
	四季の森と自然とのふれあい 森の保全活動 in えこりん村(夏)	8 月 5 日	10 名	えこりん村の森 (恵庭 市)
	学生の農業 (収穫) 体験	8 月 11 日	11 名	東裏地区農園 (当別町)
	四季の森と自然とのふれあい 森の保全活動 in えこりん村(秋)	10 月 21 日	19 名	支笏湖 (千歳市)
	四季の森と自然とのふれあい 森の保全活動 in えこりん村(冬)	1 月 20 日	11 名	えこりん村の森 (恵庭 市)
首都圏支部	富士山の森づくり	7 月 8 日	26 名	山梨県鳴沢村
長野県支部	富士山の森づくり	7 月 8 日	3 名	山梨県鳴沢村
静岡県支部	富士山の森づくり	7 月 8 日	15 名	山梨県鳴沢村
安城推進協議会	海岸林再生プロジェクト視察	10 月 12 日	12 名	宮城県名取市
豊田推進協議会	海岸林再生プロジェクト ボランティア	6 月 26, 27 日	20 名	宮城県名取市
	農業ボランティア	5 月 20 日	各回 15~20 名程度	オイスカ中部日本 研修センター
		6 月 17 日		
		7 月 15 日		
		8 月 19 日		
		9 月 9 日		
		10 月 14 日		
		11 月 11 日		
		12 月 23 日		
		1 月 13 日		
3 月 23 日				
富山県支部	緑の里山保全の森づくり活動	5 月 27 日	38 名	天林地区 (富山県中新川郡)
		6 月 11 日	84 名	
		7 月 22 日	16 名	
		9 月 16 日	25 名	

四国支部	「グリーンウェーブ 2023」 in 宝山湖	5月21日	10名	宝山湖公園（三豊市）
	第28回山・林・SUN体験	11月26日	59名	尾の瀬山オイスカ憩いの森（まんのう町）
愛媛県推進協議会	Mt. LOVE10	5月15日 5月25日 7月17日 7月24日 9月24日 11月26日 12月11日 2月25日 2月26日 3月10日 3月11日	延べ 154名	忽那山（松山市）
広島県支部	オイスカ広島の森づくり活動	6月3日	34名	廿日市市吉和 県立もみのき森林公園
	山・林・SUN活動	7月29日	73名	
西日本支部	東峰村 100年の森作り	11月23日	100名	東峰村岩屋地区
	東北海岸林活動参加	1月26日～ 28日	1名	宮城県名取市
	福岡市ごみ処理施設臨海工場視察	2月28日	10名	福岡市臨海工場



森の保全活動 in えこりん村（北海道支部）



緑の里山保全の森づくり活動  
（富山県支部）



富士山の森づくり（山梨県・首都圏・長野県・静岡県支部）



## 4. 各種体験活動

## (1) 各種体験活動の実施

組織名	事業名	開催日	参加者数	場所
北海道支部	2023年度北海道支部全体会議 および交流会	6月5日	66名	札幌パークホテル (札幌市)
	健康教育「いのちを考える学 習・生と性を考えるカフェテ リア」	10月23日	24名	札幌開成中等教育学校(札 幌市)
	アブラ農林業研修センター デュルフィン所長との交流会	11月27日	7名	北二条クラブ(札幌市)
	第22回オイスカ北海道 「子供の森」計画チャリテ ィーディナーコンサート	12月4日	255名	札幌パークホテル (札幌市)
首都圏支部	第5回ふるさと和泉・みんな の夏祭り2023	8月5日	多数	杉並区立「和泉学園」
	国際協力活動支援「チャリテ ィバザー」	9月24日	150名	東京本部
	「子供の森」計画子ども親善 大使報告会(タイ)	9月27日	20名	東京本部
	「子供の森計画」子ども親善 大使報告会(インドネシア)	11月28日	20名	東京本部
富山県支部	とやま環境フェア2023	10月14,15 日	多数	高岡テクノドーム (高岡市)
静岡県支部	ウクライナ避難学生支援 チャリティーコンサート	5月19日	600名	浜松市福祉交流センター
山梨県支部	緑化キャンペーン	4月15日	多数	イオンモール甲府昭和(昭 和町)
	SDGsウィーク2023	8月5日,6 日	多数	甲州市
	やまなしSDGsプロジェクト ACTION2023	9月24日	多数	イオンモール甲府昭和(昭 和町)
	子ども応援フェスタ お城で あそぼ!	10月14日	多数	舞鶴城公園(甲府市)
	山梨県森林のフェスティバル	10月21日	多数	小瀬スポーツ公園 (甲府市)
	おおさと防災フェスタ	10月22日	多数	大里小学校(甲府市)
	大里小学校課外授業	10月27日	70名	大里小学校(甲府市)
	なかのエコフェア	11月11日	2,400名	中野四季の森公園
	MORIKATSU	11月26日	1,300名	塩むすび広場(甲州市)
	こうふ健康フェスタ	12月10日	多数	緑ヶ丘スポーツ公園 (甲府市)
	WOODコレクション(モクコレ) 2024	1月11,12 日	5,293名	東京ビックサイト
愛知県支部	上鷹見こども園交流会	6月12日		中部日本研修センター
	第一回オイスカ中部日本の集 い	11月26日	200名	中部日本研修センター
	ウクライナ学生との交流会	12月19日		朝日ヶ丘中学校

	英語キャンプ	8月4,5日 12月23日, 24日	23名 40名	中部日本研修センター
関西支部	ワン・ワールド・フェスティバル	2月3,4日	多数	梅田スカイビル
四国支部	かがわ国際フェスタ 2023	10月9日	多数	アイパル香川 (高松市)
	チャリティゴルフコンペ	11月17日	47名	鮎滝ゴルフクラブ (高松市)
	チャリティゴルフ大会	3月22日	102名	高松カントリー倶楽部
四国支部 香川県青年会	お花見&音楽会 in 尾の瀬山 「オイスカ憩いの森」	4月1日	約60名	尾の瀬山 (まんのう町)
	どろんこ田植え体験&BBQ	6月17日	約60名	Meguru Zero Waste café (綾川町)
綾川推進協議会	センター収穫感謝祭	11月11日	40名	四国研修センター
中讃推進協議会	丸亀お城まつり	5月3,4日	多数	丸亀城
	クリスマスパーティー	11月27日	42名	オークラホテル丸亀
高松推進協議会	第28回高松秋のまつり 仏生山大名行列	10月14,15日	多数	仏生山公園 (高松市)
	令和5年度 高松市環境活動展	10月25日 ~31日	多数	市民交流プラザ (瓦町 FLAG 8階)
香川東推進協議会	造田小学校国際交流	11月14日	30名	造田小学校 (さぬき市)
高知県推進協議会	四万十川「よんでんの森」体験学習	11月16日	20名	高知県リバーパーク轟
徳島県推進協議会	とくしままちなか花ロード Project	9月16日	多数	藍場浜公園 (徳島市)
広島県支部	四国・中部日本研修センター 研修生の広島研修受入	11月21,22日	21名	広島平和記念資料館、宮島
西日本支部	脇山小学校田植え交流会	6月10日	250名	センター園場
	オイスカ農産物販売会	7月4日 11月29日	多数	福岡市役所
	オイスカ活動紹介パネル展	7月11~14日	多数	福岡県庁ロビー
	オイスカ農産物販売会	7月13~14日	多数	
	サマーナイトフェスティバル	7月29日	1500名	脇山小学校
	脇山校区大運動会	10月1日	多数	脇山小学校
	体験農園稲刈り大会	10月7日	150名	センター園場
	佐賀国際交流広場	10月29日	多数	佐賀多久市役所
	クリスマスマーケット in 博多駅前	12月6日	多数	博多駅前ステージ
	研修交流会	12月13日	40名	農業高校
	体験農園餅つき大会	12月23日	120名	センター
	チャリティゴルフコンペ	2月18日	60名	伊都ゴルフ倶楽部
西日本支部 西日本研修センター	収穫感謝祭	11月11日	1800名	センターグラウンド



中部日本の集い（愛知県支部）



どろんこ田植え体験（四国支部香川県青年会）



四国・中部日本研修センター視察受入（広島県支部）

(2) 海外現場視察・ツアー開催

組織名	期間	人数	訪問先
北海道支部	3月6日～12日	5名	ウズベキスタン共和国アラル海地域
富山県支部	10月3日～10月7日	22名	フィリピン 西ネグロス州
静岡県支部	4月7日～11日	15名	臺灣
静岡県支部	10月22日～10月27日	10名	ウズベキスタン
愛知県支部	10月22日～27日	17名	ウズベキスタン
関西支部	10月7日～14日	19名	フィリピン アブラ州・南イロコス州
広島県支部	10月7日～14日	6名	フィリピン アブラ州
西日本支部	8月4日～9日	12名	フィジー
西日本支部	8月19日～24日	22名	タイ
西日本支部	8月21日～26日	5名	カンボジア
西日本支部	8月29日～9月5日	6名	インド・ダラムサラ
茨城推進協議会	8月21日～26日	6名	フィリピン 西ネグロス州
茨城推進協議会	2月18日～3月2日	15名	フィリピン 西ネグロス州



フィリピン西ネグロス州訪問（茨城推進協議会）



40 フィリピン植林フォーラム（関西支部・広島県支部）

## (3) 森のつみ木広場、木育推進事業

全国の支部・支援組織などを中心に子どもたち（親子）が遊びを通して木に触れる「木育ひろば」や「森のつみ木広場」などを実施する木育推進事業は、保育園や小学校からのニーズも増え、全国で昨年度の2倍以上の開催となった。また、令和4年度は木材の活用、地域の活性化を目指し、地域のこども園や、やまなし水源ブランド推進協議会、NPO法人木net やまなし、企業など産官民の協働で開発された地域材の30種類以上の木のおもちゃを新たに開発した。

これらを活用し、さらに「木育ひろば」を開催し多くの子どもたちが木に触れる機会を創出していくとともに、人材の育成を目的に、大人に向けた啓発普及活動として「木育スクール」等のプログラムの開発を行っていくことで、持続可能な社会の構築を目指していきたい。

組織名	開催日	開催場所・イベント名 等
北海道支部	9月6日	札幌市立元町北小学校 第54回森のつみ木広場
	12月7日	札幌市明園小学校 第55回森のつみ木広場
	6月20日	札幌開成中等教育学校 森のつみ木広場の環境教育教材「デジタル紙芝居」完成引渡式
首都圏支部	12月13日	中央区立中央幼稚園「森のつみ木広場」
	11月19日	江東区立第一亀戸小学校「親子フェスタ」
山梨県支部	6月21日	山梨県立ろう学校 森のつみ木広場
	8月5日	大野山保育園「親子で木育、つみ木で遊ぼう」
	8月16日～21日	岡島百貨店（甲府市）木育キャラバン
	8月20日	ITOKI Family Day 2023（つみ木広場出展）
	9月9日	イノキャンWeek 「森のつみ木広場」 in 東京ガス山梨
	10月18日, 12月17日	山梨市市民会館「木育ひろば 木のおもちゃであそぼう」
	11月5日	和泉愛児園（甲府市）「森のつみき広場」・「木育ひろば」
	11月19日	江東区立第一亀戸小学校「親子フェスタ」
	12月13日	つどいのひろば たっち（山梨市）木のおもちゃで遊ぼう
	12月13日	中央区立中央幼稚園「森のつみ木広場」（首都圏支部共催）
	1月20日	西柴保育園（横浜市）「親子で木育ひろば」
	2月8日	水元幼稚園（葛飾区）「森のつみ木広場」
	2月16日	菜の花保育園（甲府市）「森のつみ木広場」
	2月23日～24日	山梨県立科学館（甲府市）木育キャラバン in 科学館
	6月4日	甲州市・オルビスの森 神金小学校 環境教育活動への協力
	6月16日	富士山（鳴沢村）甲運小学校 環境教育活動への協力
	12月19日	山梨地域づくり交流センター オイスカ木育スクール(プレ開催)
長野県支部	5月29日	田川児童センター（松本市）「つみ木広場」
	6月26日	島内児童センター（松本市）「つみ木広場」
	6月30日	入山辺保育園（松本市）「つみ木広場」
	9月29日	島内児童センター（松本市）「つみ木広場」
	10月30日	二子児童センター（松本市）「つみ木広場」
	12月20日	入山辺保育園（松本市）「つみ木広場」
	3月21日	高宮児童センター（松本市）「つみ木広場」

愛知県支部	2月28日	愛知学泉大学附属桜井幼稚園「つみ木広場」	
	3月4日	愛知学泉短期大学附属幼稚園「つみ木広場」	
	3月7日	愛知学泉短期大学附属幼稚園「つみ木広場」	
	9月6日	大口町北保育園「つみ木広場」	
	9月22日	大口町保育園「つみ木広場」	
	10月12日	扶桑町栢森南保育園「つみ木広場」	
	10月17日	扶桑町山名保育園「つみ木広場」	
	10月18日	大口町西保育園「つみ木広場」	
	10月23日	扶桑町高雄保育園「つみ木広場」	
	11月1日	大口町南保育園「つみ木広場」	
	12月5日	江南市古知野南保育園「つみ木広場」	
	12月12日	江南市古知野東保育園「つみ木広場」	
	1月19日	江南市小鹿保育園「つみ木広場」	
富山県支部	10月14, 15日	「とやま環境フェア 2023」森のつみ木体験広場（高岡市）	
西日本支部	8月7日	福岡市東区奈多小学校 留守家庭向けつみ木広場	
	8月21日	福岡市東区青葉小学校 留守家庭向けつみ木広場	



つみ木広場（山梨県支部）



つみき広場（四国支部）

## 5. 東日本大震災復興支援事業

### 【 海岸林再生プロジェクト 第2次10ヵ年計画(2021-2030) 】

2023年度はコロナ禍前の体制に完全に戻り、プロ675人、ボランティア1,194人によって、下刈、葛・藤などのツル切り・外来種ニセアカシアなどの除伐、排水路修復・新設、本数調整伐(間伐)、作業道維持管理、生長モニタリング・本数調整伐調査、マツクイムシ被害防止対策、定期巡視、各種啓発活動等を実施した。その費用に関しては、当期の寄付金と、これまでの寄付金を積み立てた特定費用準備資金の取り崩しで事業を継続している。その資金が尽き果てるまで、第3次10ヵ年計画(2031-2040)を目標に育林に関わる計画。

海岸防災林における事業規模の本数調整伐は全国初と言われているが、東北被災海岸林の中で、最も早く、順調に実施している。「1伐2残」(33%伐採。汀線に平行に2列残して1列伐採)で、2021年度:10.13ha(2014年植栽地)、2022年度:14.53ha(2014・15年植栽地)、2023年度:22.47ha(2016・17年植栽地)で実施。名取市海岸林の65%は一度目の伐採を完了した。これを約50年かけて5・6回繰り返し、5,000本/haを400本ないし800本に仕立

てる。伐採木は宮城県のご指導のもと、堆肥、チップ、木質ペレット燃料、バイオマス発電などに100%再利用される。また、名取市海岸林のCO2固定量は606t、93世帯の年間排出量に相当する。

【啓発普及活動 累計実績】

- \*活動報告会・講演会 291回・44,258人 (22都道府県)
- \*日本人視察者 3,712人
- \*外国人視察者 64カ国・292人
- \*写真パネル展 91回
- \*国内メディア等紹介 313回
- \*HPプログ更新 2,754回更新 (震災から13年間)
- \*寄附金募集パンフレット配布数 約29万枚
- \*寄附者数 2,220人 (オイスカ会員3割)
- \*寄附総額 約9.3億円 (うち積立金 約3億円)

【実績総括表】

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	累計	
育苗	播種数	-	97,500	72,500	87,250	89,856	86,400	57,000	45,800	3,000	3,000	-	-	-	552,306	粒
	発芽率	-	95	91	94	94	91	96	95	87	93	-	-	-	93.3	%
植栽	面積	-	-	-	15.67	10.06	11.00	13.66	16.32	2.00	3.75	-	-	-	72.46	Ha
	本数	-	-	-	80,182	55,084	56,037	71,945	81,600	6,000	19,350	-	-	-	370,198	本
	活着率	-	-	-	98.4	98.0	98.3	99.8	99.8	100.0	100	-	-	-	99.2	%
間伐	本数調整伐											10.13	14.53	22.78	47.44	Ha
雇用	雇用人数	-	187	507	1,221	985	1,109	1,309	1,164	814	620	1,148	683	675	10,412	人
市民	ボランティア	-	-	262	1,365	1,691	1,800	2,096	2,273	1,892	270	313	868	1,194	14,024	人
	視察人数	263	580	837	567	577	183	231	148	73	14	72	64	103	3,712	人
	活動報告会	523	4,772	5,900	4,692	4,996	3,893	5,911	4,178	3,347	1,392	3,633	541	480	44,258	人
	報告会開催	4	43	28	30	30	26	30	22	24	11	22	10	11	291	回
	メディア紹介	24	39	27	33	38	20	23	21	7	36	22	15	8	313	回



2014・15年植栽地 約26ha 全景 (左:2016年撮影 右:本数調整伐後2023年撮影)

## 6. 国際会議の開催

### ① 環境教育を基盤とした青少年育成に関する国際会議

開催日：令和5年10月4日（水）

場 所：国立青少年オリンピックセンター

出席者：8カ国44名

内 容：

各総局からの近況報告のほか、オイスカインターナショナルのネットワークを活用し、地球環境保全、防災・減災など幅広い分野で新たな取り組みの構築を目指す「広域アジア・環太平洋戦略パートナーシップ構想」についての意見交換がなされた

### ② 東京フォーラム（国際協力活動推進意見交換会）

開催日：令和6年2月29日（木）

場 所：衆議院第一議員会館 国際会議室

出席者：10カ国13名

内 容：

10カ国の大使および大使館関係者を迎え開催した意見交換会。オイスカから、活動の柱としている研修事業の成果や各国で活躍するOBの紹介をし、そうした人材との連携をさらに促進し、活動を発展させたい旨の意欲を示した。ウズベキスタン大使から、アラル海での緑化活動への謝意が述べられた。

## 5. 収益事業

### 総括

当法人所有の固定資産の有効活用や公益目的事業と位置付けられない受託事業等を実施、利益の100%を公益目的事業に資した。

#### 1. 不動産等の賃貸収益

(1) 所在地：福岡県福岡市内浜一丁目 560 m<sup>2</sup>

貸与先：三菱UFJリース（株）

※事業用定期借地権設定契約

(2) 所在地：東京都杉並区和泉三丁目6-12

賃貸物件名：オイスカハウス永福町 752.20 m<sup>2</sup> (25戸分賃貸面積)

管理委託先：京王不動産（株）

※賃貸運営管理業務委託契約

(3) 所在地：東京都杉並区和泉二丁目17-5

賃貸物件名：オイスカ国際協力総合センター1階 329.81 m<sup>2</sup>

貸与先：株式会社ディアローク

※普通賃貸契約

(4) 所在地：東京都杉並区和泉三丁目6-12

賃貸物件：オイスカハウス永福町駐輪場 4.00 m<sup>2</sup>

貸与先：(株) ループ

※Port 設置保管場所契約

#### 2. 農場管理受託収益

(1) 委託場所：愛知県豊田市勘八町（豊田市旧畜産センター） 58,371 m<sup>2</sup>

管理棟及び農場等の管理

委託者：豊田市

※業務委託契約



## 6. 組織の運営

令和5年度においては評議員会を1回、理事会を4回開催し、健全な運営に努めた。  
会議、役員、職員に関する件は次のとおりである。

### 1. 会議の開催

#### (1) 評議員会

##### ①令和5年度定時評議員会

日時：令和5年6月20日(火) 12:30～14:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第二会議室

議題：

第1号議案：令和4年度事業報告・決算書類(案)及び監査報告

第2号議案：任期満了に伴う役員(理事・監事)の選任(案)について

報告事項

- ・令和5年度事業計画・予算について
- ・令和4年度特定資産等の資金運用状況

#### (2) 理事会

##### ①令和5年度第1回理事会

日時：令和5年6月5日(月) 12:30～14:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第一会議室

議題：

第1号議案：令和4年度事業報告・決算書類(案)及び監査報告

第2号議案：令和4年度新規賛助会員の承認(案)について

第3号議案：令和4年度国際協力活動推進基金明細書について

第4号議案：任期満了に伴う理事・監事候補の推薦(案)について

第5号議案：顧問・参与の委嘱(案)について

第6号議案：令和5年度定時評議員会の開催(案)について

第7号議案：特定資産「子供の森」計画事業積立資産(公益目的保有財産)  
への積み増し(案)について

報告事項

- ・令和4年度特定資産運用状況について
- ・代表理事・業務執行理事の業務報告

##### ②令和5年度第2回理事会(書面審議)

日時：令和5年6月20日(火)

議題：

第1号議案：次期の代表理事(理事長、副理事長)及び業務執行理事  
(専務理事、常務理事)の互選(案)について

- ① 理事長 中野 悦子(代表理事、重任)

- ② 副理事長 廣瀬 道男 (代表理事、重任)
- ③ 専務理事 永石 安明 (業務執行理事、重任)
- ④ 常務理事 森田 章 (業務執行理事、重任)

③ 令和5年度第3回理事会

日時：令和5年12月14日(木) 12:30～14:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第七会議室

議題：

第1号議案：令和6年度事業計画・予算編成方針(案)について

第2号議案：電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理  
規程(案)

第3号議案：賛助会員の除名について(案)

報告事項

- ・代表理事、業務執行理事の業務報告

④ 令和5年度第4回理事会

日時：令和6年3月7日(木) 12:30～14:00

場所：衆議院第一議員会館 特別室(和室)

議題：

第1号議案：令和5年度補正予算(案)について

第2号議案：令和6年度事業計画・予算(案)について

第3号議案：諸規程の一部改正(案)について

第4号議案：不動産寄贈の申し入れについて

第5号議案：令和6年度定時評議員会の開催(案)について

第6号議案：特定費用準備資金の積立限度額変更(案)について

## 2. 役員

令和6年3月31日現在における当法人の役員等は次の通りである。

会 長

渡辺 利夫 拓殖大学顧問

(1) 評議員

No.	氏 名	役 職
1	赤 阪 清 隆	元国連広報担当事務次長
2	岡 田 康 男	弁護士
3	神 野 重 行	三重産業(株) 代表取締役
4	佐 伯 勇 人	四国電力(株) 取締役会長
5	佐 藤 百 合	(独法) 国際交流基金 理事
6	篠 塚 徹	前拓殖大学北海道短期大学 学長

7	進 士 五十八	福井県政策参与
8	中 村 利 雄	(公財)全国中小企業振興機関協会 会長
9	ペマ・ギヤルポ	拓殖大学 国際日本文化研究所 客員教授
10	森 本 英 香	早稲田大学法学部 教授 / 元環境事務次官
11	マリ クリスティーン	東京女子大学 現代教養学部 教授

## (2) 代表理事

No.	氏 名	役 職
1	中 野 悦 子	理事長
2	廣 瀬 道 男	副理事長

## (3) 業務執行理事

No.	氏 名	役 職
1	永 石 安 明	専務理事
2	森 田 章	常務理事

## (4) 理事

No.	氏 名	役 職
1	石 井 淑 雄	(株)石井 代表取締役会長
2	瓜 生 道 明	西日本支部会長 九州電力(株)代表取締役会長
3	樋 泉 克 夫	愛知県立大学 名誉教授
4	光 岡 保 之	愛知県支部 会長
5	湧 井 敏 雄	首都圏支部会長、前神奈川経済同友会専務理事

## (5) 監事

No.	氏 名	役 職
1	神 山 敏 夫	税理士・公認会計士
2	梶 川 幹 夫	元財務省 関税局長

〈50 音順〉

## (6) 顧問

No.	氏名	役職
1	荒木光弥	国際開発ジャーナル編集主幹
2	太田猛彦	東京大学名誉教授
3	荻田知英	中国電力(株)特別顧問
4	小林健	日本商工会議所会頭
5	篠沢恭助	(公財)資本市場研究会顧問
6	新木富士雄	北陸電力(株)名誉顧問
7	十倉雅和	(一社)日本経済団体連合会長
8	中野利弘	前(公財)オイスカ理事長
9	新浪剛史	(公社)経済同友会代表幹事
10	廣野良吉	成蹊大学名誉教授
11	榎本晃章	(一財)日本原子力文化財団理事長
12	松尾新吾	九州電力(株)特別顧問

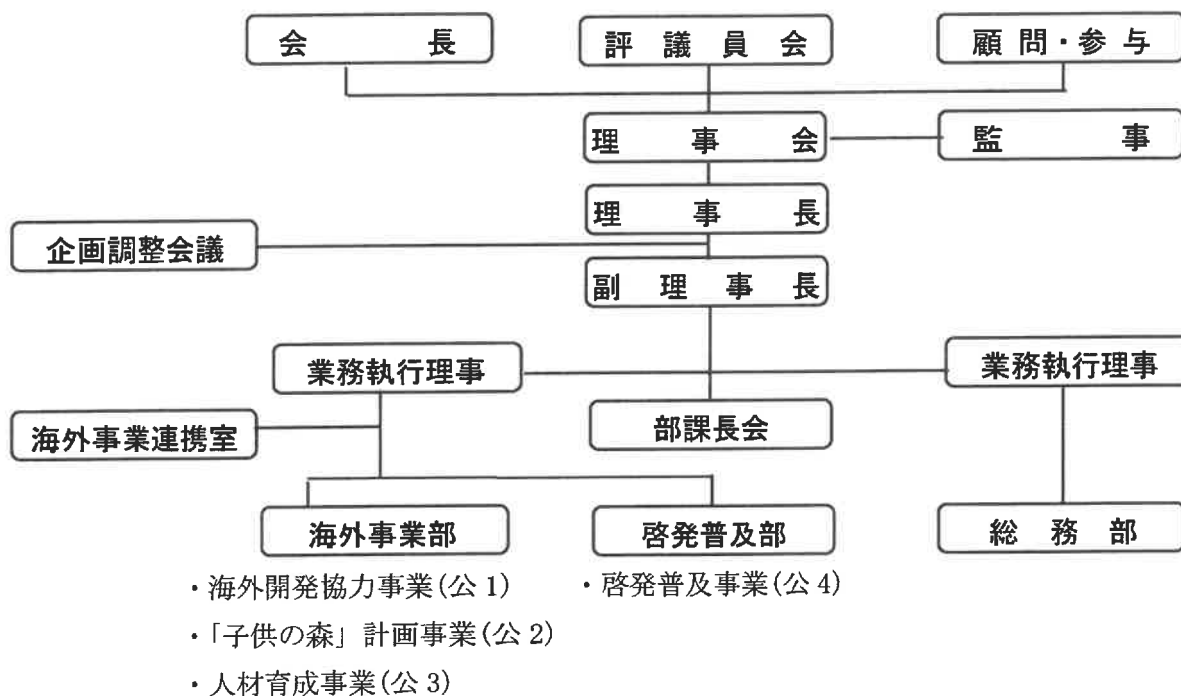
## (7) 参与

No.	氏名	役職
1	泉雅文	四国支部会長
2	逢見直人	(公財)富士社会教育センター理事長
3	上村良成	関西支部会長
4	小川信也	岐阜県支部会長
5	落合偉洲	静岡県支部会長
6	鬼石貞治	(学)中野学園オイスカ浜松国際高校校長
7	亀井文行	宮城県支部会長
8	木島正芳	元東京入国管理局長
9	久和進	富山県支部会長
10	黒柳俊之	元(独)国際協力機構理事
11	小林泉	大阪学院大学国際学部教授
12	茂田和彦	(公社)大日本山林会監事
13	杉下恒夫	(一財)国際開発機構理事長
14	中村陽子	NPO 法人メダカのがっこう理事長
15	西脇芳和	(公財)損保ジャパン環境財団専務理事
16	平林靖久	長野県支部会長
17	松村秀雄	広島県支部会長
18	宮嶋嘉則	CELCO JAPAN 特別顧問
19	宮島雅展	山梨県支部会長
20	山下雅子	社会保険労務士
21	横山清	北海道支部会長

〈50音順、令和6年3月31日現在〉

### 3. 事務機構及び職員

#### (1) 機構図



〈令和6年3月31日現在〉

#### (2) 職員

令和6年3月31日現在における本法人職員(パート職員含む)は次のとおりである。

事務所	職員数
本部(海外赴任者含む)	37
西日本研修センター	11
中部日本研修センター	15
四国研修センター	7
関西研修センター	2
地方組織	19
合計	91

令和5年4月1日～令和6年3月31日 賛助会員数の動向と会費入金額

会員の動向

会費入金額(千円)

	期首会員数		期末会員数		期首と期末の増減数		令和4年度入金額		令和5年度入金額		前年度との差額	前年比
	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人		
本部直轄	158	38 120	150	35 115	8	-3 -5	4,502	2,030 2,472	4,574	2,120 2,454	72	101.6%
北海道支部	80	58 22	76	56 20	4	-2 -2	2,670	2,250 420	2,660	2,280 380	-10	99.6%
宮城県支部	198	117 81	187	109 78	11	-8 -3	7,900	6,250 1,650	7,175	5,600 1,575	-725	90.8%
首都圏支部	326	140 186	309	139 170	17	-1 -16	15,039	11,175 3,864	14,140	10,470 3,670	-899	94.0%
山梨県支部	88	42 46	81	39 42	7	-3 -4	2,720	1,930 790	2,480	1,710 770	-240	91.2%
長野県支部	120	56 64	101	47 54	19	-9 -10	3,088	2,020 1,068	2,928	1,900 1,028	-160	94.8%
富山県支部	134	81 53	125	78 46	9	-2 -7	4,880	3,950 930	4,845	3,940 905	-35	99.3%
静岡県支部	217	77 140	198	68 130	19	-9 -10	7,156	4,490 2,666	6,869	4,480 2,389	-287	96.0%
愛知県支部	873	287 586	836	280 556	37	-7 -30	24,528	14,030 10,498	24,105	13,600 10,505	-423	98.3%
岐阜県支部	125	34 91	113	32 81	12	-2 -10	3,454	1,810 1,644	3,350	1,730 1,620	-104	97.0%
関西支部	82	33 49	76	32 44	6	-1 -5	3,190	2,240 950	3,148	2,180 968	-42	98.7%
広島県支部	70	42 28	68	43 25	2	1 -3	2,740	2,180 560	2,770	2,240 530	30	101.1%
四国支部	855	213 642	815	210 605	40	-3 -37	22,556	10,120 12,436	21,703	9,990 11,713	-853	96.2%
西日本支部	767	304 463	728	304 424	39	0 -39	24,213	15,100 9,113	24,055	15,260 8,795	-158	99.3%
合計	4,093	1,522 2,571	3,863	1,473 2,390	230	-49 -181	128,636	79,575 49,061	124,802	77,500 47,302	-3,834	97.0%

## 附属明細書

令和6年3月  
公益財団法人オイスカ

なお、令和5年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

